

令和6年度 幼保小連絡懇談会資料

幼保小 連携実践事例集2

(4班～6班)



川越市幼児教育振興審議会
川越市教育委員会

第47回幼保小連絡懇談会（令和6年度）グループ編成と当番園・校

※●…本年度の当番です。 ◆…令和7年度の当番予定 ★…令和8年度の当番予定

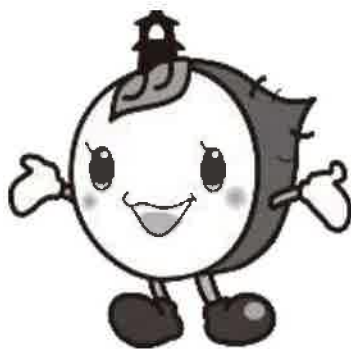
班	幼稚園	保育園等	小学校	各班の当番決定方法
1班	①川越双葉◆ ②こども園初雁★ ③あそか ④ひつじ ⑤川越 ⑥ひまわり（東） ⑦ルンビニ●	①神明町 ②中央 ③仙波町 ④新宿町● ⑤風の子◆ ⑥風の子第二★ ⑦ねむの木 ⑧レイモンド川越 ⑨おひさま ⑩増美川越	①川越第一◆ ②川越★ ③中央 ④仙波●	○20園・校 ○幼・保・小それぞれの順番 幼：①～⑦ 保：①～⑨ 小：①～④ ※おひさま保育園・増美保育園川越は新規加入の為、次回以降の当番です。
2班	⑧ながさわ ④岡田★ ⑪泉の森川越 ⑫芳野台こども園●	①南古谷●◆ ②古谷第二◆ ③南古谷第二◆ ⑤古谷★ ⑥芳野 ⑦はるかぜ ⑨伊佐沼すまいる ⑩星の子みのり ⑬どんぐりの森	①古谷◆ ②牛子★ ③南古谷 ④芳野●	○17園・校 ○幼・保は混合の順番 幼・保：①～⑬ 小：①～④ ※どんぐり保育園は新規加入の為、次回以降の当番です。
3班	①あおば◆ ②川越なかし★ ③ふくはら ④こども園ふじま ⑤藤原白合 ⑥新河岸 ⑦高階●	①高階第二● ②貴精◆ ③高階第三★ ④高の葉 ⑤高階スマイル ⑥高階 ⑦さくらんぼ ⑧音羽の森 ⑨まーぶるきらり	①高階南◆ ②高階★ ③寺尾 ④福原西 ⑤高階北●	○（21園・校） ○幼・保・小それぞれの順番 幼：①～⑦ 保：①～⑧ 小：①～⑥ ※まーぶるきらり保育園は新規加入の為、次回以降当番です。
4班	①ひまわり南★ ②南双葉 ③ひかりの子認定 ④こども園●◆ ④川越あさひ◆	①まきば★ ②大東 ③脇田新町 ④おおぞら ⑤増美 ⑥あゆみ ⑦慶櫻南台● ⑧川越七歩◆	①大東東★ ②新宿 ③大塚 ④武蔵野● ⑤大東西◆	○17園・校 ○幼・保・小それぞれの順番 幼：①～④ 保：①～⑧ 小：①～⑤
5班	①かすみ◆ ②川鶴ひばり★ ③川越第二ひばり ④みよしの ⑤認定こども園 のぞみ ⑥霞ヶ関●	①霞ヶ関第二 ②川鶴 ③むさしの ④下田 ⑤バンビ ⑥霞ヶ関 ⑦マーガレット● ⑧笠幡菜の花◆ ⑨ともいき★ ⑩さくらんぼ第二	①霞ヶ関南◆ ②霞ヶ関西★ ③川越西 ④霞ヶ関 ⑤霞ヶ関東 ⑥霞ヶ関北●	○22園・校 ○幼・保・小それぞれの順番 幼：①～⑥ 保：①～⑩ 小：①～⑥
6班	①第二ひつじ ③川越ひばり ⑤川越白ゆり●	②名細 ④今成● ⑥名細第二◆ ⑦小室◆ ⑧おがやの里しもだ★ ⑨かつらの木★ ⑩増美田町 ⑪紀秀会川越やまだ ⑫かつらの木第二 ⑬音羽の森第二	①広谷 ②月越 ③今成● ④山田◆ ⑤上戸★ ⑥泉 ⑦名細	○20園・校 ○幼・保は混合の順番 幼・保：①～⑬ 小：①～⑦

※当番は、毎年各班2園・1校です。

※●…本年度の当番です。 ◆…令和7年度の当番予定 ★…令和8年度の当番予定

4 班

- | | |
|---|---------------|
| 1 発達特性のある子との関わり | (ひまわり南幼稚園) |
| 2 小さい子お当番～他学年の子との関わりを通して～ | (南双葉幼稚園) |
| 3 未就園児との交流 “少しあそぼうの日” | (ひかりの子認定こども園) |
| 4 運動会の組体操 | (川越あさひ幼稚園) |
| 5 お店屋さんごっこ | (まきば保育園) |
| 6 友だちの良い所を見つける キラキラタイム | (大東保育園) |
| 7 ぼくたち、わたしたちでやってみよう！ | (協田新町保育園) |
| 8 和太鼓練習を経ての発表 | (おおぞら保育園) |
| 9 リレー ～心とバトンをつなげて～ | (増美保育園) |
| 10 保育活動を通しての自己表現 | (あゆみ保育園) |
| 11 発表会 | (慶櫻南台保育園) |
| 12 ルールを守ることで広がる遊び「ジャンケン陣取りゲーム」 | (川越七歩保育園) |
| 13 あきのおもちゃをつくってあそぼう！ | (大東東小学校) |
| 14 あきのおもちゃをつくろう | (新宿小学校) |
| 15 学級活動(2) [キラキラあいさつ] | (大塚小学校) |
| 16 ～「よりよい人間関係の形成」に向けたプログラムの実践～
(教科指導や学校行事を通して他者との関わりについて考える) | (武蔵野小学校) |
| 17 「伝え合い」を大切にした学習指導 | (大東西小学校) |



川越市マスコットキャラクター ときも

R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) 発達特性のある子との関わり

園・校名 ひまわり南幼稚園

☐	幼児期の教育 (5歳4月～)
☐	接続期①:アプローチ (5歳10月～)
	接続期②:スタート (第1学年1学期)
	小学校教育 (第1学年2学期～)

【活動内容】

- ・ 概要
 - ・ 発達特性のある子と関わることで、特性について理解を深める
 - ・ 人格の多様な在り方を知り、認め合う心を育てる
 - ・ 関わりを通して充足感を得ることで、成長へとつなげていく
- ・ 教師・保育士の具体的な働きかけ
 - ・ 発達の特性をわかりやすく伝えていく
 - ・ 他児に不公平感を感じさせないように、発達特性があっても基本的に特別扱いせず、関わり方を他児と大きく変えない
 - ・ 何かを任せて負担をかけさせない
 - ・ 発達特性のある子がしてしまった行為のフォローは必ずする
(代わりに謝る、「怖かったね」等の気持ちの共有)
- ・ 働きかけのねらい
 - ・ 発達特性を嫌悪することなく、人格・個性として受け入れ、思い込みや偏見を減らしたい
 - ・ クラスの一員として認知し、仲間意識を育てたい
 - ・ 保育者や他児との関わりを通して、さらに成長を伸ばしたい
- ・ 成長した幼児・児童の姿
 - ・ 発達特性児ができたことに対して、成長を喜ぶ姿があった
 - ・ 発達特性を子どもなりに理解し、怖がることが減った
 - ・ 他児と同じことができる活動が増え、クラスの子の名前も覚えられるようになった

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。）

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意の芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

昨今の「インクルーシブ教育」に近い保育環境である。この1人の特性のある子と関わることで、「偏見」が減り、自ら関わったり、成長を喜んだりする姿が多くみられるようになった。特性のある子も、クラスの受け入れ方が心地よく、園への行き渋りや危険な行為も減った。またできる活動も増え、クラスで過ごす時間も多くなり、相乗効果を感じている。だが、この保育は、特性のある子は、支援（援助）の必要も多いので、担任1人では無理な事、必ずしも他の園児全員が受け入れているとは限らず、子ども1人ひとりのフォローが必要な事、保護者との連携が必要なこと・・・など多くの課題がある

R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) 小さい子お当番～他学年の子との関わりを通して～

南双葉幼稚園

【活動内容】

年長組の子どもたちが入園したばかりの年少組の子をお世話する『小さい子お当番』という活動を行う。これは4月当初から新入園児が園生活に慣れるまでの5月下旬頃まで行われ、登園時に年少組の子を教室まで連れて行ったり、身支度を手伝いながら教えてあげる。また、朝の会には年長組4.5人が日替わりで教室を訪ね、挨拶や返事の仕方、クラスの当番活動のやり方を教えたり、手本を見せたりする。

【教師の具体的な働きかけ】

- ・『小さい子お当番』で行う内容を、年長組の子どもたちに具体的に伝える。(登園した年少組の子を教室まで連れていく、身支度を手伝う、泣いている子に声を掛けたり一緒に遊ぶ、挨拶や返事の仕方の手本を見せたり、クラスの当番活動ではどんなことをするのかを教えるなど)→特別なことをやるのではなく、「園生活において自分たちが日頃やっていることや知っている約束事・ルールを教えてあげよう」と話をする。
- ・年少組の子に対してどんな言葉を掛けたり、どのように接すれば良いか、年長組の子どもたちが自分自身で考えられるように話し合いを進める。
- ・年長組に進級した喜びを感じ、最年長児としての自覚を持てるような関わりをする。

【働きかけのねらい】

- ・年長児自身も進級したばかりであり、慣れない環境に不安を感じている子もいるので『小さい子お当番』の活動が負担にならないよう具体的な内容を丁寧に伝えるとともに、「いつも自分たちがやっていること・知っていること」を教えれば良いことに気付かせる。
- ・新入園児への関わり方を考える中で、相手の気持ちに気付いたり、思いに寄り添うことができるようになる。また、最年長児としての自覚や意識を高める。

【成長した幼児の姿】

- ・年長組ならではの活動ということで、張り切って取り組む姿が見られた。中には不安を口にする子もいたが、具体的なお手伝いの仕方を教えたり、困った時には教師に尋ねるよう伝えたと、安心した様子で前向きに当番活動を行っていた。
- ・最年長児としての自覚を持ち、小さい子に対してどんな言葉を掛けたいか、自分に何が出来るかをよく考えて行動できるようになり、優しく思いやりを持って年少組の子のお世話をするようになった。

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。)

健康な心と体	○自立心	○協同性	○道徳性・規範意 の 芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・ 生命尊重	数量や図形、標識 や文字などへの 関心・感覚	○言葉による伝え 合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題…年長組の子どもたちは小さい異年齢の子と接することにより“最年長児”ということを感じ、意識を持って主体的に行動できるようになる。また、自分より小さい子に対してどのように関わったら良いかを一人一人が考えて実践し、その中で相手に寄り添う優しさや思いやりの心が育まれていった。それがひいては自分の周りのさまざまな人に向けられると思われる。子どもたちが他者との関わりにおいて、思いやりを持って接することはもちろん、自分の思いを言葉で伝えることの大切さ感じ、協同性や社会性が身に付いていくような関わり・指導を教師が心掛けていく必要がある。

R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) 未就園児との交流 * 少しあそぼうの日

園・校名 ひかりの子認定こども園

	幼児期の教育 (5歳4月～)
○	接続期①: アプローチ (5歳10月～)
	接続期②: スタート (第1学年1学期)
	小学校教育 (第1学年2学期～)

【活動内容】

- 概要
11月から月に2回程、年長児と未就園児がペアになり、遊具の遊び方を教えてあげたり、園庭の案内(ヤギさん、ウサギさん、坂道など)をしながら交流していく。
- 教師・保育士の具体的な働きかけ
未就園児に対してどのような声掛けをしたり、どのような遊びをするべきか自分達との遊び方の違いを含めてクラスで話し合う。
- 働きかけのねらい
新しく園に入園するお友達に、園での遊び方を年長の子ども達から伝える。
自分より小さなお友達と遊ぶ中で年上としての自覚を持たせる。
異年齢の子どもとの関わり方を知ることによって日頃から困っている子などに対して自分から行動できるよう育つようになる。
- 成長した幼児・児童の姿
普段の友達との関わり方、小さいお友達との関わり方の違いを自分で判断し、状況に応じて目線を合わせて関わる事が出来る。又、自分が見つけたお花を未就園児にプレゼントしてあげるなど未就園児にあわせて遊んであげられるようになった。
小さい友達だけでなく困っている友達に対しても自ら助けようとする姿が見られた。

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。)

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意の芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

子ども達から園での遊び方を伝える事で、より未就園児は理解しやすく、年長児にとっても園庭の使い方の再確認になった。

また、異年齢での交流を通して他者と自分の違いを知り、年齢関係なく声を掛け合う姿が見られた。しかし、子ども達の中には、関わり方が分からず不安な気持ちを抱く子どもがいたので、無理なく活動が行えるよう保育者のサポートが必要であるとも感じた。

R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) 運動会の組体操

園・校名 川越あさひ幼稚園

○	幼児期の教育 (5歳4月～)
○	接続期①:アプローチ (5歳10月～)
	接続期②:スタート (第1学年1学期)
	小学校教育 (第1学年2学期～)

【活動内容】

- 概要
 - 子どもたち同士で姿勢を保持したり、支えたりバランスをとったりと全身を使って表現する組遊び。
 - 運動会に向けて数週間前から練習する。
 - どのようにしたらより良くなるか話し合い、実践していく。
- 教師・保育士の具体的な働きかけ
 - 正しいやり方を教え、練習終わりにより良くなる方法について子ども同士で話し合う場を設けた。
- 働きかけのねらい
 - 子どもたち同士の話し合いの場を設けることで、協調性を養う。
 - 目標に向かって皆で団結し、やり遂げることで、達成感及び自己肯定感を味わう。
- 成長した幼児・児童の姿
 - 行事を通して子どもたちが自分たちで考え、主体的に行動できるようになった。
 - 相手の気持ちを尊重し、自分の気持ちも上手に相手に伝えられるようになった。

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。）

○健康な心と体	自立心	○協同性	○道徳性・規範意の 芽生え	○社会生活との関わり
○思考力の芽生え	自然との関わり・ 生命尊重	数量や図形、標識 や文字などへの 関心・感覚	○言葉による伝え合 い	○豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

意義：・思いやりをもって主体的に行動できるようになった。

- ・友だちを信じて取り組むことによって、互いに信頼しあうことの大切さ、心を一つにすることで生まれる感動を学ぶことができた。

課題：・子どもによって個人差があるため、今後の行事を通して補っていきたい。



R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) お店屋さんごっこ

園・校名 まきば保育園

☐	幼児期の教育 (5歳4月～)
☐	接続期①:アプローチ (5歳10月～)
	接続期②:スタート (第1学年1学期)
	小学校教育 (第1学年2学期～)

【活動内容】

・ 概要

○店番…同学年のお友達同士協力し、お客さん呼び商品売る。

○客……下の学年の子とペアになり、一緒にお店をまわる。

・ 教師・保育士の具体的な働きかけ

○店番としてどのように声をかけたら、お客さんが来てくれるのかをお友達同士で相談するよう活動前に伝える。

○下の学年の子と店をまわる際、相手の意見を聞き、店まで誘導するよう伝える。

・ 働きかけのねらい

○他者に対し思いやりを持つことや、自分の意見を伝えたり相手の意見を受けながら他者と関わることを目指す。

・ 成長した幼児・児童の姿

○以前よりも学年を問わず、いろいろなお友達に対する興味が湧き、自ら関わる姿が見られる。

○関わりの中でトラブルに発展しても話し合いで解決できる場面が出てきた。

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。）

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意の芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

○活動に対し意欲的に取り組んでいる

○下の学年の子とのやり取りが上手くいかないことがある為、援助が必要になる場合がある

R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) 友だちの良い所を見つける キラキラタイム

園・校名 川越市立大東保育園

☐	幼児期の教育 (5歳4月～)
☐	接続期①: アプローチ (5歳10月～)
	接続期②: スタート (第1学年1学期)
	小学校教育 (第1学年2学期～)

【活動内容】

- 概要

自分のことばかりで他児への関心が低い子が多く、トラブルが続き、思いやりの気持ちが希薄であった。また、この子はこの子という固定観念があり、良い所に気付かず、クラスの雰囲気が悪くなかったため、友だちの良い所や素敵な所を見つけ、発表し合うキラキラタイムを行うことにした。
- 教師・保育士の具体的な働きかけ
 - 他児を助けるなど、思いやる優しい言動をしていた時に認める声かけをしたり、褒めるようにしていった。
 - 1日に1回午睡前の落ち着いた時間にキラキラタイムを行うようにした。
- 働きかけのねらい
 - どういう言動が良いのかに気付いてもらうため、良い所、素敵な姿を具体的に伝える。
 - 友だちへの関心や思いやりの気持ちを持ってほしい。
 - 自分では気付かなかったエピソードを聞くことで、他児への偏見をなくしていく。
 - 発表しやすい雰囲気づくりをする。
- 成長した幼児・児童の姿
 - 少しずつ他児への関心や多いやりの気持ちが育ってきている。
 - 友だちとのトラブルも、相手の気持ちを聞いて自分たちで解決しようとする姿が出てきた。

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。）

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意の芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

- 友だちのマイナス面ばかりが目につき、些細なトラブルも多かったが、良い所や素敵な姿を見つけて発表する機会を作ること、友だちへの関心や思いやりの気持ちが芽生え、友だちのプラス面に目が行くようになり、クラスの雰囲気が良くなっていった。
- 勝負ごとになると自分本位の言動がまだ目立ったり、褒めてほしくてやる子も多いため、自然に思いやれる言動がとれるようにしていくことが課題。

R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) ぼくたち、わたしたちでやってみよう!

園・校名 脇田新町保育園

☐	幼児期の教育 (5歳4月～)
☐	接続期①:アプローチ (5歳10月～)
	接続期②:スタート (第1学年1学期)
	小学校教育 (第1学年2学期～)

【活動内容】

- 概要
遊びのルールを自分たちで決めたり、トラブルを自分たちで解決しようとする。
- 教師・保育士の具体的な働きかけ
前期は言葉の代弁や解決方法を保育士が仲立ちとなり伝え、後期はできるだけ声をかけず見守るようにした。
- 働きかけのねらい
保育士がそばにいないと、泣いたり黙ったり叩いたり、言葉で他者と関わろうとする姿が見られにくかったため、こども同士でルールを決めたり、解決できるようになってほしい。
- 成長した幼児・児童の姿
後期になると「ジャンケンで決める?」「その言い方はいやだよ、優しく言って」とこども同士で遊びを決めたり、トラブルを解決しようとする姿がみられた。

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。）

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意の芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

〈意義〉他者の思いを考え、共に楽しく過ごせるやり方を知っていく。

〈課題〉まだまだ表現する言葉、解決方法が少ないと思うので、自分の中の

「他者との関わり」の引き出しを増やしていく。

R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) 和太鼓練習を経ての発表



幼児期の教育
(5歳4月～)



接続期①: アプローチ
(5歳10月～)

接続期②: スタート
(第1学年1学期)

小学校教育
(第1学年2学期～)

おおぞら保育園

【活動内容】

・ 概要

4月から和太鼓指導の先生に年4回の指導、日々の活動では担任による和太鼓指導を経て練習をし12月の発表会で大勢の観客の前で披露します。

・ 教師・保育士の具体的な働きかけ

保育士が鏡となり股割り、バチの持ち方や基礎打ち練習をし基礎が習得され、1曲を1小節ごとに叩く練習や個別練習を行う。後半期から発表会前は、3パートに分かれパートごとの練習や1曲通しての練習、発表会前通し練習を行う。

・ 働きかけのねらい

和太鼓を通して音に対する感性を育み、練習を重ねるごとに上達する喜びを体験する。みんなで力を合わせて演奏する楽しさ、心をつなげる喜びを味わう。

・ 成長した幼児・児童の姿

和太鼓を初めて触れる時は自分の叩くことに必死になっていたが、1曲を通して叩けるようになってからは、他のパートの音を聞きながらリズムを合わせるようになった。また、発表会近くには子ども達同士で教え合う姿が見られ自分のパートだけでなく他のパートのリズムも覚え叩けるようになる。

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。）

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意の芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

意義：挨拶の仕方、姿勢、リズム感が身に付く。

課題：年長から和太鼓を取り組み始めるではなく、小さいころから楽器に触れ、年中に4歳児後期には基礎打ちを習得し年長につなげる。

R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) リレー ～心とバトンをつなげて～

園・校名 増美保育園

☐	幼児期の教育 (5歳4月～)
☐	接続期①:アプローチ (5歳10月～)
	接続期②:スタート (第1学年1学期)
	小学校教育 (第1学年2学期～)

【活動内容】

◎概要

- ・かけっこ、鬼ごっこ、ドッチボールなど集団遊びを通して持久力をつける。
- ・運動会に向けて4月よりリレーのルール、友達と協力する楽しさを伝える。

◎教師・保育士の具体的な働きかけ

- ・チームごとに話し合いの場を設ける
(走る順番を子どもたちに決めさせたり、勝てるための話し合いをさせたりする)

◎働きかけのねらい

- ・子どもたちと話し合いチームごと目標を決め、主体性を高めるようにする。
- ・自分の意見を通すのではなく友達の意見にも耳を傾けられるようにする。

◎成長した幼児・児童の姿

- ・少しずつ相手に興味を持ち友達の頑張りを認める喜び、仲間意識が芽生えた。
- ・挑戦しようとする姿や失敗を認めることができるようになった。
- ・一人ひとりの発言力、発信力がついてきた。
- ・友達と共有する楽しさや協力して勝てた喜びを感じられた。

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。)

☐ 健康な心と体	☐ 自立心	☐ 協同性	☐ 道徳性・規範意の芽生え	☒ 社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	☐ 言葉による伝え合い	☐ 豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

〈意義〉皆で協力する楽しさ、やり遂げる達成感を経験しクラスが一丸となることができた。思考が肯定的になり何事も積極的になった。また消極的な友達に対して手を差し伸べたり、思いやりが自然と身についた。

〈課題〉日常生活になると持続せず、自己中心的になったり、仲の良い友達としか関わろうとしなかったりする子が目立つ。

自主的にいろいろな友達との関わるように今後保育をしていきたい。

R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) 保育活動を通しての自己表現

園・校名

あゆみ保育園

○	幼児期の教育 (5歳4月～)
○	接続期①:アプローチ (5歳10月～)
	接続期②:スタート (第1学年1学期)
	小学校教育 (第1学年2学期～)

【活動内容】

- ・ 概要
- ・ 当番活動や誕生会の司会、製作発表などを通して人前で発表することの喜びを感じ自信を付ける。
- ・ グループでの話し合いを通して友だちと共感したり協力したりする大切さを知る。
- ・ 教師・保育士の具体的な働きかけ
- ・ 日々の保育活動の中で、自分の考えや思いを発表する場を設ける。
- ・ 1人ひとりの考えや思いを認めたり共感したりする。
- ・ 子ども同士のかかわりを見守りながらかかわりのヒントになるような声掛けをする。
- ・ 働きかけのねらい
- ・ 保育活動や行事の中で自分の考えた言葉や思いを伝えるという大切さを味わえるようにするため。
- ・ 表現力や自己主張する力を身につくようにするため。
- ・ 成長した幼児・児童の姿
- ・ 人前で恥ずかしがらずに発表できるようになった。
- ・ 自分の考えやイメージしたことを話せるようになった。
- ・ 友だちの意見に共感する姿が見られるようになった。

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。）

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意の芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

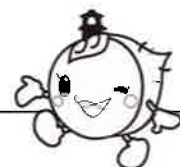
指導者から見た実践の意義と課題

【意義】

- ・ グループでの話し合い・製作発表・当番活動を通して人前に出て発表するという経験を積み重ねたことで、達成感や自信に繋がる活動となった。

【課題】

- ・ 自分の意見を言える子もいたが、なかなか言えない子も見られた。また、意見を出し合っても自分の意見を押し通そうとする姿が見られている為、相手の気持ちに気付けるようなかかわり方を知る。
- ・ 自分の意見を伝えられるが、静かな声になってしまう姿が見られる為、適切な声の大きさについて知る。また、話しをしている友達がいるときは耳を傾ける習慣を意識していく。



R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) 発表会

園・校名 慶櫻南台保育園

☐	幼児期の教育 (5歳4月～)
☐	接続期①:アプローチ (5歳10月～)
	接続期②:スタート (第1学年1学期)
	小学校教育 (第1学年2学期～)

【活動内容】

・ 概要

- 発表会に向けた話し合い、練習
- 当日の発表

・ 教師・保育士の具体的な働きかけ

- テーマを決めるため、話し合いの場をつくる
- 子どもたちが必要とする製作物の材料準備をする
- 担任以外の職員によるピアノ伴奏
- クラス以外の友だちや職員に練習を見てもらう機会を作る

・ 働きかけのねらい

- 1人ひとりの思いを伝え合って、同じ目標を持ち取り組めるようにする
- 自分のイメージを伝え、何を使って作りたいか考え伝えられるようにする
また、壊れてしまった際にどう修理をしたらいいのかを自ら考えたり、上手くいかなかったときに友だちと共に考え工夫したり、職員へ相談できるようにした
- 担任以外の職員との練習で、関わりを持つことを楽しむ
- 自分の役割をしっかりと行い、見てもらう経験を通して自信に繋げていく

・ 成長した幼児・児童の姿

- 自分の気持ちを伝えたり、友だちの意見を聞く姿があった
- 作りたい物を自分たちで調べたり、友だちと工夫し合って作り上げる姿があった
- 担任以外の職員とも親しみを待って関わったり、感謝の気持ちを伝える姿があった
- 他者に見られる経験を重ねていくことで、自信をもってやり遂げることが出来た

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。）

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意の 芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・ 生命尊重	数量や図形、標識 や文字などへの 関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

意義…クラスのみならず、周りの友だちとの関わりや普段あまり関わりのない職員との
交流。自分たちで考え協力する楽しさを味わえた。

課題…消極的な子に対するアプローチの方法。

R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) ルールを守ることで広がる遊び「ジャンケン陣取りゲーム」

園・校名 川越七歩保育園

○	幼児期の教育 (5歳4月～)
○	接続期①:アプローチ (5歳10月～)
	接続期②:スタート (第1学年1学期)
	小学校教育 (第1学年2学期～)

【活動内容】

- 概要
平均台を使った「じゃんけん陣取りゲーム」を進級当初に実施。が、友達の好き嫌いや、ルールそのものの理解が追いつかず、負けてしまったあとに拗ねて動かなくなる子もいた。
- 教師・保育士の具体的な働きかけ
進級当初で担任との信頼関係も十分でない時期でもあったため、拗ねたりルールを守れない子などいた場合はまずはその児童の話を耳を傾け、気持ちに寄り添った。どうしたら気持ちに折り合いをつけられるか、落ち着くことができるかなど、児童と共に考え、自ら答えを見つけられるまで見守るようにした。
- 働きかけのねらい
☆遊びの中にもルールがあることを伝え続けた。
☆ルールを守るからこそ、勝った時の喜びがあることを伝えた。
☆思いを言葉で伝えることの大切さに気付けるようにした。
- 成長した幼児・児童の姿
上記を繰り返し伝えていくことで、夏以降は自分の思いを言葉で伝えられるようになり、気分を損ねる回数も減ってきた。秋にはルールも守れるようになり、遊びの中で新たなルールの提案をしたり、逆に相手の意見に対しても「それいいね」など受け入れられる姿勢が見られるようになり、遊びに広がりが出てきた。

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。）

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意の芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

意義：集団での活動の中で、ルールを守ることの大切さや、他者との関わり方を学ぶとともに、自分の思いや考えをどう伝えていくかを自ら考え実践できるようにしていく。

課題：担任の仲介がまだまだ必要なケースも多く、意見をまとめていくことに時間がかかる。

R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) あきのおもちゃをつくってあそぼう！

園・校名 川越市立大東東小学校

幼児期の教育
(5歳4月～)

接続期①：アプローチ
(5歳10月～)

接続期②：スタート
(第1学年1学期)

○ 小学校教育
(第1学年2学期～)

【活動内容】

・ 概要

- 10月 2年生から「おもちゃまつり」に招待され、手作りのおもちゃで遊ばせてもらいながら、お店の作り方や遊ばせ方などを学んだ。
- 11月 2年生のおもちゃ作りを参考にしながら、秋の宝物（どんぐりや落ち葉など）を使っておもちゃ作りをして、お店を開いた。

・ 教師・保育士の具体的な働きかけ

- 2年生のおもちゃやお店の作り方やお客さんに対する接し方を遊びながら学んでくるように働きかけた。
- おもちゃを作る際も、秋の宝物を使う条件で、なおかつ友達も遊んで楽しめるものを考えるように話した。

・ 働きかけのねらい

- おもちゃ作りに夢中になりすぎて、お客さん（相手）がいることを忘れてしまいがちなので、お客さんも楽しめるもの、遊んでもらうための説明なども考えるようにする。

・ 成長した幼児・児童の姿

- ふだんだったら、なかなか作りたいものが思い浮かばない児童が、2年生のおもちゃ作りを見て、意欲的におもちゃを作る姿が見られた。
- お店づくりに、看板や説明、点数表など、おもちゃ以外にも必要なものを考え、工夫して準備することができた。

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。）

健康な心と体	自立心	○協同性	○道徳性・規範意の芽生え	○社会生活との関わり
○思考力の芽生え	○自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	○言葉による伝え合い	○豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

- (意義)・友達と協力し、秋の宝物を使いながら、工夫したおもちゃを作ることができた。また、友達とコミュニケーションをとりながら、遊ぶルールも考えて、楽しんでいた。
- (課題)・今回は、学年だけで遊ぶ活動を行ったが、可能であれば、2年生や近く幼稚園保育園等を招待して、さらに関わりを広げる活動ができるとよかった。

R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) あきのおもちゃをつくろう

園・校名 川越市立新宿小学校

幼児期の教育
(5歳4月～)

接続期①:アプローチ
(5歳10月～)

接続期②:スタート
(第1学年1学期)

○ 小学校教育
(第1学年2学期～)

【活動内容】

- 概要
 - 木の実や落ち葉など秋の素材を使って、おもちゃを作る。
 - 試行錯誤して、よりよいものを作る。
 - ゲーム性のある遊びになるように遊び方(ルール)を工夫する。
 - おもちゃランドを行う。
- 教師・保育士の具体的な働きかけ
 - 学習の計画表と学習のふり返りができる、学習プリントを作成した。
 - 同じおもちゃを作成した児童同士で、グループ編成を行った。
 - おもちゃランドでは、学年内の交流学习を取り入れた。
- 働きかけのねらい
 - 学習プリントを活用することで、見通しを持って計画的に学習を進めることができる。
また、学習のふり返しをすることで、おもちゃ作りへの気付きや次回の学習への意欲につなげた。
 - 同じおもちゃを作成した児童同士でグループ編成を行うことで、互いの良さを認め合ったり、おもちゃの改良の際のアドバイスをしたりしやすい学習環境を整えた。
 - 学年内の交流学习を取り入れることで、同学年の児童同士の学び合いになり、「じぶんもやってみたい」と感じさせ、今後の教育活動への意欲につなげた。
- 成長した幼児・児童の姿
 - おもちゃランドに向けて、どの児童も計画的におもちゃ作りができた。また、作ったおもちゃで遊ぶ中で、互いに良さや改良点を言葉で伝え合うなど協同的に学び合う姿が見られた。おもちゃランドでは、遊びのルールを守って楽しく交流することができた。

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。)

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意識の芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

- 【意義】「おもちゃランドをする」という目的意識がはっきりしているので、それに向けて一人一人が、秋のおもちゃ作りに意欲的に取り組むことができた。
- 【課題】自分の思いを相手にわかりやすく伝えられるように、言語環境を整える。

R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) 学級活動(2) [キラキラあいさつ]

園・校名

川越市立大塚小学校

幼児期の教育
(5歳4月～)

接続期①: アプローチ
(5歳10月～)

接続期②: スタート
(第1学年1学期)

○ 小学校教育
(第1学年2学期～)

【活動内容】

・ 概要

1. 事前アンケートの結果を見て、自分たちの挨拶について振り返る。
2. 普段の挨拶の様子を撮影した動画を流し、クラスの実態を掴む
3. 挨拶の良さについて考える。
4. 本時のめあてを知る。
5. 挨拶が自分からできていない、返事をしないのはなぜか、学級全体で話し合い、確認する。
6. 5. で見つけた“挨拶ができない理由”から考え、その解決方法について考える。
7. 笑顔を作る挨拶ができるようになるために、どんな挨拶を心がけるのか、個人のめあてを決める。
8. そのめあてを意識して、挨拶ロールプレイングを行う。
9. 実践への意欲化を図る。

・ 教師・保育士の具体的な働きかけ

- ① 挨拶の様子を撮影して視聴させた。
- ② 挨拶ができない理由を考え、挨拶をした時に挨拶が返ってこないなどの体験をさせた。
- ③ どんな挨拶を心掛けるのか、個人のめあてを考えさせ、練習させた。

・ 働きかけのねらい(上記に対応した番号を記載)

- ① アンケート結果から、“自分では挨拶をしている”と回答している児童が多かったため、自らの様子を客観的に見ることができるようにする。
- ② 挨拶が返ってこないときの気持ちを考えさせることで、挨拶の大切さに気付かせる。
- ③ 実際にめあてに沿って練習したときに、相手の表情の変化に気付かせ、自分も相手も嬉しい挨拶ができるようになる。

・ 成長した幼児・児童の姿

- 登校後、教室に入る児童から挨拶の声が聞こえるようになった。
- 教室に入る児童の挨拶が聞こえると、それに対応して挨拶を返す児童が増えた。
- 通りすぎる教師以外にも、上級生に対して挨拶をする児童も見られた。

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。）

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意の芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

- ICTを活用することで容易に自分たちの客観的姿が確認でき、大変効果的だった。
- 他者と関わる場面として、ペアでの話し合いやロールプレイングを意図的に設定していた。
- △定着させるために、あいさつ週間や掲示物の作成などを行って積み重ねていくとよい。

R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

～「よりよい人間関係の形成」に向けたプログラムの実践～
(教科指導や学校行事を通して他者との関わりについて考える)

川越市立武蔵野小学校

【活動内容】

・ 概要

- 生活科のスタートカリキュラムにおける弾力的な時間割の編成【入学当初の2週間程度】
学校生活に関わる活動を通し、教師や友達と学校生活を過ごすことの楽しさを実感し、安心して遊びや学習に向かわせる。
- 他学年児童との交流の場や他教員との関わり場の設定。
他学年児童と交流(業前や清掃の時間、見て学ぶ場や教えてもらう場・なかよしタイムなど)
道徳の時間は、学年担任による輪番制を導入し、多くの目で児童の指導にあたる。
- 下校班における学年の友達や保護者との関わり
生活習慣の定着に向けた保護者の協力(定期的おたより発行、保護者会、電話連絡等)
下校班の児童やお迎え当番の保護者との関わりを通して、よりよい人間関係形成を目指す。
- 各教科や道徳、行事を通して、児童自身がよりよい人間関係について考える学びの場。
多様な他者との協働を通して、豊かな感性に気づいたり、自分の思いを表現したりする力を育む。

・ 教師の具体的な働きかけ

- 児童の発達段階に配慮し、安心して学校生活に対応できるよう柔軟な時間割を設定。
- 学年だよりや学級だよりを活用し、児童の学校生活における警鐘や頑張りなどを伝え、児童とのよりよい関わりにつながるよう、家庭との連携を図る。
- 児童間で起きた問題を学年や学級で共有し、当事者ではない児童も、様々な場面でどうすべきかを考えられるよう指導する。
- 学習活動では、他者の学びに気づけるよう、ペアやグループ学習を設けながら、多様な考えに触れられるよう、意図的に様々な学びの場を設定する。

・ 働きかけのねらい

- 入学当初の児童は、就学前の生活経験の差が激しく、一斉指導で進めるには難がある。
他学年児童や保護者、多くの教員で個別にスモールステップで経験値の差を埋める。
- 多様な他者の考えに触れることで、他者との協働や豊かな感性・思考力を身につける。
- 児童同士の些細なトラブルは、全体で共有し問題点や方策を考え、他者の体験から学ぶ。

・ 成長した児童の姿

- 些細なトラブルについては、自分たちで解決できるようになってきた。
- 友達の良い面に目を向け、素直に「すごい」「すてき」と認められるようになってきた。
- 周囲の状況を察知し、声をかけたり手助けしたり、他者と協働できる場面が増えてきた。

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。)

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意の芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

- 児童は、特定の人からではなく、様々な人から気づかされたり学んだりする場面が圧倒的に多い。
だからこそ、接続期に多くの人と関わる機会を設け、交流する中で、より良い人間関係が形成され、自己実現にもつながる。今後の人格形成にも大切なこの時期に実践することは、大きな意義がある。
- ▲保護者の協力がとても大切なこの時期。家庭の理解や考え方が学校と異なる場合、働きかけても児童まで届かないことがあることは課題といえる。

R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名)「伝え合い」を大切にした学習指導

園・校名 川越市立大東西小学校

	幼児期の教育 (5歳4月～)
	接続期①:アプローチ (5歳10月～)
○	接続期②:スタート (第1学年1学期)
○	小学校教育 (第1学年2学期～)

【活動内容】

・概要

- 一人一人が自分の思いや考えを伝え、聞き合える環境づくり
 - ・様々な場面で対話を取り入れる。
 - ・相談、決定、実行、ふり返しをするグループ活動を行う。
(例:生活科:学校探検・秋のおもちゃを作って遊ぼう・動物園へ行こう)
 - ・話し合い、アイデアを生かした学級活動に取り組む。
(例:どうぞよろしくの会をしよう・もっと仲よくなろう会を開こう)

・教師・保育士の具体的な働きかけ

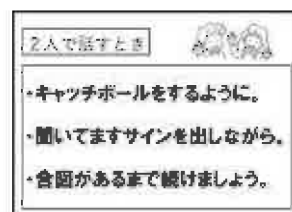
- ・対話のモデルを示し、対話の仕方を教える。対話のよさを伝える。
- ・話し合いのめあてやグループ活動のめあてを明確に伝える。
- ・どんな考えでも笑顔で受け止め、整理し、クラスの児童と練り上げる。

・働きかけのねらい

- ・2人組の対話を繰り返すことで、伝え合いに慣れ、互いの考えを交流する楽しさを味わわせる。
- ・何のために話し合うのか、どんな活動をするのかを明確にすることで、自分事として参加できるようにする。
- ・安心して自分の考えが伝えられる、自分の意見を聞いてもらいたいという雰囲気をつくる。

・成長した幼児・児童の姿

- ・お話好き、発表好きの児童が多い。相手のよいところを認め、進んで声かけができる。
- ・活発な対話や自主的なグループ活動が行われるようになってきた。
- ・学級活動では、決定したことをもとに役割を分担し、協力して準備を進めている。会の実施に当たっては、進んで周囲の児童と関わり、楽しむことができている。



しながらきこう!

- やっぱり
- なるほど
- そうかな

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。)

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意の 芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・ 生命尊重	数量や図形、標識 や文字などへの 関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

- ・児童に自信をもたせることが大切であると考えている。そのために、対話や話し合いを通して自分の考えが伝えられるようにしていきたい。
- ・気分が乗らない時や自分の考えが通らなかったときの心の折り合いのつけ方

5 班

- 1 親子参観日(びっくり箱の製作) (かすみ幼稚園)
- 2 リレーを通して学び成長した事 (川鶴ひばり幼稚園)
- 3 帰りの会で「ふわふわさん」を発表し、優しい言葉や行動を育む活動 (川越第二ひばり幼稚園)
- 4 主体性を育む保育「みんなの日」 (みよしの幼稚園)
- 5 発表会に向けての話し合い (認定こども園のぞみ幼稚園)
- 6 お泊まり保育 グループ決め (認定こども園霞ヶ関幼稚園)
- 7 「花いちもんめ」の遊びから育つ力 (霞ヶ関第二保育園)
- 8 毎日の当番活動 (川鶴保育園)
- 9 お店屋さんごっこ (むさしの保育園)
- 10 掃除活動の中で (下田保育園)
- 11 午睡時間の遊びを話し合おう (バンビ保育園)
- 12 和太鼓にチャレンジ!! (霞ヶ関保育園)
- 13 他園との園外交流 (マーガレット保育園)
- 14 浅漬け作りの買い物 (笠幡菜の花保育園)
- 15 あそびの中で育む共感力
～クラス活動、遊びの時間でのゲームの進め方、制作時の素材選びなどを通して～ (ともいき保育園)
- 16 かぼちゃとピーマンを育て食べる。 (さくらんぼ第二保育園)
- 17 友達や先生との関わりの中で、進んで他者と関わろうとする態度を育てる。 (霞ヶ関南小学校)
- 18 あきのおもちゃまつりをしよう! (霞ヶ関西小学校)
- 19 あきのおもちゃを つくって あそぼう (川越西小学校)
- 20 「むかしあそび」 (霞ヶ関小学校)
- 21 話し合い活動を通して互いのよさを認め合える児童の育成 (霞ヶ関東小学校)
- 22 「A さんよろしくねかいをひらこう」(学級活動(1)) (霞ヶ関北小学校)



～研究主題に基づく実践～

(実践名) 親子参観日(びっくり箱の製作)

園・校名

かすみ幼稚園

○	幼児期の教育 (5歳4月～)
	接続期①：アプローチ (5歳10月～)
	接続期②：スタート (第1学年1学期)
	小学校教育 (第1学年2学期～)

【活動内容】

- ・ 概要
 - 事前に子どもたちで話し合いをし、スライド式の空き箱を使用して牛乳パックが飛び出すびっくり箱を作り、箱の中にはメッセージを書くということに決まった。
 - 作り始めは自分の両親に向けて個人的に作っていたが、「ドッキリ大成功！」の看板も作りたいという意見が出て、全員で看板作りをした。
 - 当日は、びっくり箱で保護者を驚かせることに成功し、全員で「どっきり大成功！」と看板を広げると保護者から歓声があがり、子どもたちも満足した様子だった。
- ・ 教師・保育士の具体的な働きかけ
 - 字を書く子、色を塗る子、模様を作る子などと、それぞれの担当に分かれて作業がしやすいように場所を作っていた。
 - 自分の得意な作業ややりたいことを見つけられない子にも興味が持てるように声をかけるとともに、子ども同士で誘いあったり助け合ったりできるような声かけをしていた。
 - 子どもたちから出たアイデアを形にしていけるように製作の道具を準備していた。
- ・ 働きかけのねらい
 - 自分たちで考え作りあげていく楽しさや達成感を味わう。
 - 全員で協力することで、譲り合いや感謝の気持ちを持てるようにする。
 - 自分の意見を発表したり、友だちの意見に耳を傾けたりできるようにする。
- ・ 成長した幼児・児童の姿
 - 友だちが面白い案を出したり、最後まで製作を頑張ったりしている姿を褒め、認め合う姿があった。
 - 作りながら「こうしたほうがいいんじゃない？」などと、更にアイデアが生まれていた。
 - 保護者を驚かせたい、感謝の気持ちを伝えたいという思いが一致し、団結力が生まれた。

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。）

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意の芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

保育者からの提案や与えられたものではなく、子どもたちで企画、製作、準備をすることで、大変さや喜びを共有し、協力することの楽しさを知っていく。
自己主張の強い子や人任せにしてしまう子がいる中で、譲り合いの気持ちや積極性などをどのように引き出していけるのかが課題。

R6幼保小実践事例集：「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) リレーを通して学び成長した事

園・校名 学校法人 山口学園 川鶴ひばり幼稚園

	幼児期の教育 (5歳4月～)
○	接続期①：アプローチ (5歳10月～)
	接続期②：スタート (第1学年1学期)
	小学校教育 (第1学年2学期～)

【活動内容】

・ 概要

運動会で年長組2園合同クラス対抗のリレーを行う為に、
クラス全員が団結し、同じ目標に向かってリレーの練習に取り組みました。

・ 教師・保育士の具体的な働きかけ

勝敗がすべてではない事。リレーは一人では出来ず、クラスみんなで同じ目標に
向かって力を合わせる事。仲間を思いやる気持ちや、お互いの努力を認め合う事の
大切さを話しながら練習を進めました。また、友達の頑張りを応援し合う事で、チーム
としての気持ちを高める事を意識づけました。

・ 働きかけのねらい

リレーではつい勝敗ばかりにこだわりすぎてしまい、走るのが苦手な子に「遅いよ」
「○○のせいで負けた」など、相手を傷つけてしまう言葉を発してしまう事がある。
リレーの目標はクラス全員の団結であること。他者を思いやれる行動が取れ、仲間と
一緒に頑張る達成感を味わい、自分自身の成長を感じる事をねらいとしました。

・ 成長した幼児・児童の姿

クラス全員で力を合わせる事が出来、走るのが苦手な子も嫌な事から逃げずに頑張る事が出来
た。
勝敗にこだわっていた子も、友達を応援し、自分も今まで以上に頑張ろうという
気持ちになれた。結果、リレーでは負けてしまったが「悔しい」と泣く子を、「でも頑張ったね」
と声を掛ける思いやりの姿が見られました。クラス全員が努力した事をお互いに認め合い、達
成感や一体感を共有する事が出来ました。

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。）

○健康な心と体	自立心	○協同性	道徳性・規範意の 芽生え	社会生活との関わり
○思考力の芽生え	自然との関わり・ 生命尊重	数量や図形、標識 や文字などへの 関心・感覚	○言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

子ども達が、リレーという体験を通して、他者との関わりやつながりを持ち、
心も身体も成長する姿が見られました。

年長の2学期に学び成長した事を、小学校入学に向けて活動のねらいを丁寧に伝え、クラス
全体で協力し合う喜びを感じられるよう支えていく事が今後の課題です。



R6幼保小実践事例集：「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名)

帰りの会で「ふわふわさん」を発表し、優しい言葉や行動を育む活動

幼児期の教育
(5歳4月～)

接続期①：アプローチ
(5歳10月～) ○

園・校名

学校法人山口学園 川越第二ひばり幼稚園

接続期②：スタート
(第1学年1学期)

【活動内容】

・ 概要

「ふわふわ言葉・トゲトゲ言葉」をテーマに、帰りの会でその日に見つけた「ふわふわさん」(良いことをしていた・言っていた人)を発表する活動を行いました。子どもたちは一日の生活の中で友達や自分の言葉や行動を振り返り、ふわふわ言葉(優しい言葉)を使った場面や、良い行動を見つける習慣を身につけていきます。

・ 教師・保育士の具体的な働きかけ

- 言葉の意味を分かりやすく伝える：最初に「ふわふわ言葉(ありがとう、だいじょうぶ?など)」と「トゲトゲ言葉(いやだ、ばかなど)」の違いについて、具体的な言葉や場面を挙げて説明し、言葉が相手に与える影響について話し合いました。
- 気づきのきっかけづくり：一日の中で「ふわふわさん」を見つける時間を設け、「○○ちゃんが落ちたおもちゃを拾ってくれたよね」「優しい言葉をかけてもらって嬉しかったね」など、教師が具体的に例を挙げることで、子どもたちが良い行動に気づきやすいように促しました。
- 帰りの会での発表：帰りの会では、「今日のふわふわさん」を子どもたちに発表してもらい、良い言葉や行動に対してクラス全体で拍手を送りました。

・ 働きかけのねらい

- 自分や友達の言葉や行動に意識を向け、良いことを認め合う姿勢を育む。
- 言葉が相手に与える影響を知り、思いやりの気持ちや他者への優しさを養う。
- 自分の行動を振り返ることで、社会性や自己肯定感を高め、集団生活の中で協力し合う態度を育てる。

・ 成長した幼児・児童の姿

この活動を通して、子どもたちは友達の良いところを自然と見つけれられるようになり、「ありがとう」「だいじょうぶ?」といった優しい言葉が日常生活の中で増えていきました。また、友達から「ふわふわさん」と発表されることが嬉しく、自ら進んで手伝いをしたり、良い言葉を使おうとする姿も見られるようになりました。

さらに、自分の言葉や行動を振り返る力がつき、トゲトゲ言葉を使ったときには「言い方を変えればよかったね」と反省する姿も見られ、友達同士で思いやりのある関係が築かれていきました。クラス全体に温かな雰囲気広がりと、互いに認め合うことで、子どもたちの表情もより自信に満ちたものへと変わっていききました。

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。)

健康な心と体	自立心○	協同性○	道徳性・規範意の芽生え○	社会生活との関わり○
思考力の芽生え○	自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	言葉による伝え合い○	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

実践の意義

日常生活の中で子どもたちが自然に友達の良い行動や言葉に気づき、認め合う姿勢が育まれました。また、相手を思いやる心がクラス全体に広がり、温かな雰囲気が生まれました。

実践の課題

「ふわふわさん」に選ばれることや発表されることを重視しすぎて、本来の目的である思いやりや優しさを忘れてしまう子も見られました。教師が活動の意図を丁寧に伝え続けることで、目的に立ち返らせる工夫が必要だと感じました。



R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) 主体性を育む保育「みんなの日」

園・校名 学校法人 法城学園 みよしの幼稚園

【活動内容】

・ 概要

「みんなの日」という自由保育の日を、年間を通し設けている。子どもたちは各保育室に設定されている、絵・工作・玩具・戸外の部屋を使い、好きな遊びを一日自由に展開することが出来る。

主なねらい 自分で興味関心を持ち失敗や達成感を体験しながら、粘り強く取り組む力や主体的な深い学びを身につける。

・ 教師・保育士の具体的な働きかけ

○まだ自分のやりたい遊びが見つからない子どもに「遊びを見つける」きっかけ作りをしたり、遊びが見つけた子どもに対しては自分のしたいことや使いたい道具等の要求を自分で他者に伝えられるように言葉を引き出したり時には見守っている。

○子ども同士での伝え合いや協同して遊びを発展していけるように子ども同士を繋げたり達成できたことを十分に認め、自信に繋がるように声かけをしている。

○必ず反省会をし、教諭同士意見やエピソードを伝え合いながら主体性のある保育を目指し研究している。

・ 働きかけのねらい

「主体的・対話的で深い学びをする」場になるように環境設定をしたり働きかけをしている。

主体的…自ら興味関心を持ち、好きな遊びを見つける力を育む。

対話的…子どもが遊びを通して友だちに気持ちを伝えたり協力して遊ぶ楽しさを知る。

保育者や友だちと関わる中で、好きな遊びと一緒に没頭したり考えを伝え合う中で折り合いをつける大切さを知る。

深い学び…諦めずに挑戦したり試行錯誤をする経験をし、他者に認めてもらうことで自信に繋げ更なる発展につなげる。

・ 成長した幼児・児童の姿

○みんなの日を導入した当初は個々で好きな遊びを見つけ遊び込む姿が見られたが、回数を重ねていくうちに、自分の要求を保育者に伝える姿も増えていった。

○友だちの遊びに興味を持ち一緒に遊ぶ中で、他者に伝えたり、工夫・協同する姿が見られるようになった。

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。）

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意識の芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

意義…みんなの日では“好き”から始まる遊びを通し、夢中・集中没頭する力、最後まで諦めない力、考えたり工夫する力、自分の思いを伝える力、友だちと協力する力、が付き社会性や責任感へ繋がっていくものと考えます。

課題…「子どもの主体性を育む保育」をする為には職員一人一人の技量も求められる。子どもの言葉に対し、固定観念で対応するのではなく、いかに広く多角的な視野で捉え、子どもが要求を自らの力で達成する為にどんな関わりをしたら良いのか、その場での判断が難しい時もあります。

R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) 発表会に向けての話し合い

園・校名 認定こども園のぞみ幼稚園

幼児期の教育
(5歳4月～)

○ 接続期①: アプローチ
(5歳10月～)

接続期②: スタート
(第1学年1学期)

小学校教育
(第1学年2学期～)

【活動内容】

- 概要 ☆ 好きな友だちとグループに分かれて発表会を作り上げる
(共通の目的を持ったグループ活動)
意見を出し合って、何をしたいか具体的に決めていく
また、何が必要か考え話し合う

- 教師・保育士の具体的な働きかけ

子どもの意見や気持ちを出しやすいように話を持ちかける
子どもの思いが伝わらなかった場合の仲介

- 働きかけのねらい

発表会を自分たちの力で作り上げることができる
(協力して一つのものを完成させる)
他の人の意見を聞く力や自分の意見を伝える力を身につける

- 成長した幼児・児童の姿

意見を出し合う中で、お互いの気持ちを理解し、別の方法を考えたり、
譲り合う姿があった
お友だちの良いところを見つけ真似したり、言葉にして表現し、
お互いに気持ちを高め合う姿があった
普段関わることが少ないお友だちと関わることで今まで分からなかった
ことが見えて仲良くすることができた

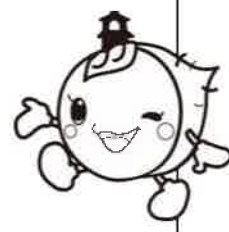
※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。）

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意の 芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・ 生命尊重	数量や図形、標識 や文字などへの 関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

意義： 他の子どもと関わることで生まれる感情や意見を自分の言葉にして
表現力が身につくので就学しても活かすことができる
子どもたちの心の育ちが目に見えてわかる場面がある

課題： 個々の性格やレベルに合わせて働きかける必要があるため
一人ひとりと親身に関わることに



R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) お泊まり保育グループ決め

園・校名 幼保連携型認定こども園 霞ヶ関幼稚園

○	幼児期の教育 (5歳4月～)
	接続期①:アプローチ (5歳10月～)
	接続期②:スタート (第1学年1学期)
	小学校教育 (第1学年2学期～)

【活動内容】

・ 概要

お泊まり保育のグループ決め

(2 クラス合同で4つのグループを作り、グループ名・リーダー副リーダーを子ども達で話し合って決めた。)

・ 教師・保育士の具体的な働きかけ

- ・ 前年のお泊り保育のDVDを鑑賞し、お泊り保育のイメージをつかめるようにした。
- ・ グループ決めの前に猛獣狩りゲームを行い、楽しく数に興味を持てるようにした。
- ・ 決め方の具体例を伝えた。
- ・ グループ全員が嫌な気持ちにならず、楽しく話し合いができるように事前に話をした。
- ・ 決め方に困っているグループにはアドバイスや提案を持ちかけた。
- ・ 意見を言えずにいる子(我慢してしまう子や関心のない子)にも話し合いに参加できるように声をかけた。

・ 働きかけのねらい

- ・ 意見を積極的に言える子、発言が苦手な子、興味を持ちにくい子など様々な子どもがいるため、全員が関わり参加できるようにするために声をかけた。
- ・ 全員が気持ちよくお泊まり保育をたのしみにできるよう、働きかけた。

・ 成長した幼児・児童の姿

- ・ 自分の意見を優先したいという思いだった子も、働きかけから相手の気持ちを考えて話し合おうとする姿が見られた。
- ・ リーダーになった子はグループ全員が良い気持ちで話し合いができるように話を進めようと工夫する姿が見られた。

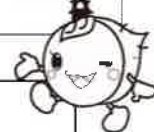
※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。)

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意の芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

意義: グループ決めを行ったことで、相手の気持ちを思いやる気持ち、積極的に参加する意欲と、友達と楽しむことを学んだ。

課題: グループ名を決める時に、なかなか意見がまとまらず、時間がかかってしまった。(先に決まったグループを待たせてしまった。)



R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) 「花いちもんめ」の遊びから育つ力

園・校名 霞ヶ関第二保育園

幼児期の教育
(5歳4月～)

○ 接続期①: アプローチ
(5歳10月～)

接続期②: スタート
(第1学年1学期)

小学校教育
(第1学年2学期～)

【活動内容】

・ 概要

「花いちもんめ」遊び

・ 教師・保育士の具体的な働きかけ

誰を選ぶかを話し合う時に、お互いに意見を伝え合うように促したり、どうしたら折り合いをつけられるか言葉を添えながら話し合いを見守る。

・ 働きかけのねらい

追いかけて追いかけられたりする集団遊びがあまり得意ではない子もあり、全員で遊ぶ時間をとっても、すぐに抜けていくことも多かった。また発言を促しやすい「友だちの名前をあげる」というところから始めて、自分の意見は主張するものの、他の子の意見を聞いたり受け入れようとするのが苦手な子が、遊びを通してやりとりを重ねて、相手の思いに耳を傾け、時には受け入れる経験をさせていきたいと考えた。

・ 成長した幼児・児童の姿

追いかけられる集団遊びが苦手な子も笑顔で参加でき、繰り返し楽しんでいる。また、たくさんの友達と遊ぶことが楽しいことに気づき、他の集団遊びにも入ってみようという姿が出てきた。更に自分だけでなく相手にも意見があること、自分の意見がたとえ通らなくても楽しい経験ができることに気づき、話し合うことに抵抗感を感じる子が少なくなった。

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。）

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意の芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

(意義) 相手にも思いや意見があることに気づき、様々な考え方や思いに触れるきっかけになった。

(課題) 困った時に解決方法を相談するなど、子どもたちの生活をよりよくするための話し合いの場も意識してつくっていく。

R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) 毎日の当番活動

園・校名 川越市立川鶴保育園

○	幼児期の教育 (5歳4月～)
	接続期①: アプローチ (5歳10月～)
	接続期②: スタート (第1学年1学期)
	小学校教育 (第1学年2学期～)

【活動内容】

- 概要
4～5人のグループで当番活動を行う。当番の仕事は、台布巾の回収、ゴザ・布団を敷く、雑巾がけ用の水をバケツに準備して片付ける、畑に水をやるの4つ。
- 教師・保育士の具体的な働きかけ
なぜ当番活動をするのか、理由・意義を明確にする。
子どもの考え、やり方を尊重し、声を掛けすぎずに見守る。
- 働きかけのねらい
見通しを持つことで、自分の気持ちをコントロールする力を育て最後までやりきることの大切さを知る。
子ども同士で考えたり、声を掛け合ったり、協力したりする力を育てる。
- 成長した幼児・児童の姿
人の役に立つ経験をする中で、ほめられたり、感謝されたりすることで集団の一員として場面や相手を考えて行動できる姿が多くなった。

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。）

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意の芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

- 当番活動を通して、人に感謝されることで自信を付けることができています。
活動の中で衝突する場面では、話し合い認めあう経験を積むこともできています。
- 活動に慣れてくると雑になったり、ペースの遅い子を待てなかったりすることがある。

R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) お店屋さんごっこ

園・校名むさしの保育園

【活動内容】

- ・ 概要
 - ① お店で売る品物を作る
 - ② お店とカフェのグループに分かれお店作りをする
 - ③ 店員の役割を理解し活動する
- ・ 教師・保育士の具体的な働きかけ
 - ① グループに分かれてお店の準備をする際に具体的にどんな品物があるのかを伝えながら、子ども達の話し合いの仲介をする。
 - ② 店員の役割や行動を実践しながら伝えていく。
- ・ 働きかけのねらい
 - ① お店のイメージを浮かべ安くしながら、子ども達が意見を伝え、他者の意見を聴きグループの意見がまとまっていくことを目指す。
 - ② 年下のお客さんに対しどのような関わりが良いか気づく。
- ・ 成長した幼児・児童の姿

話し合いの初めは各自が意見を伝えるだけだったが、他児の意見を聴き実際に活動する中でグループが共通のイメージを持つことができた。

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。）

○健康な心と体	○自立心	○協同性	○道徳性・規範意の芽生え	○社会生活との関わり
○思考力の芽生え	○自然との関わり・生命尊重	○数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	○言葉による伝え合い	○豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

子ども達にお店屋さんごっこの活動の初めは緊張した姿が見られたが、お店の準備をする中で共通の目的を持つ友達がいることを心強く感じる事ができた。

クラス集団が協力し準備してきたお店で年下のクラスが楽しむ姿に触れ、子ども達自身が充実感を得ていた。

R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) 掃除活動の中で

園・校名 下田保育園

☐	幼児期の教育 (5歳4月～)
☐	接続期①：アプローチ (5歳10月～)
	接続期②：スタート (第1学年1学期)
	小学校教育 (第1学年2学期～)

【活動内容】

- 概要
毎日使っている物や場所に感謝の気持ちを込めて、友だちと協力して掃除をする
- 教師・保育士の具体的な働きかけ
8つのチームを8つの掃除場所に分け、1週間交代で毎日掃除する
みんなで使っている部屋なのできれいにしようと、前向きな声掛けを行う
上手にできている子をほめ、きれいになるやり方を知らせる
- 働きかけのねらい
同じチームの子と協力して掃除をすることで、自分の役割に自信を持つ
自分たちできれいにしたいという目的を持って取り組み、やりとげたことの達成感を味わう
- 成長した幼児・児童の姿
最初はふざけてしまう子もいたが、毎日掃除をしていく中で友だち同士でやり方を教えあったり、自ら進んで行うようになった
1人よりも友だちと掃除することで、より良くなる方法を発見していた
気が付いた時に整理整頓をする姿がみられた

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。）

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意の 芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・ 生命尊重	数量や図形、標識 や文字などへの 関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

意義：掃除という嫌なイメージから、みんなで協力してきれいにすることで生活する中での充実さを感じることが出来ている

課題：保育園の中だけでなく、どこでも掃除の大切さを感じてもらえるようにしていきたい

R6幼保小実践事例集:「健康な生活」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) 午睡時間の遊びを話し合おう

園・校名 バンビ保育園

☐	幼児期の教育 (5歳4月～)
	接続期①: アプローチ (5歳10月～)
	接続期②: スタート (第1学年1学期)
	小学校教育 (第1学年2学期～)

【活動内容】

・ 概要

- * 3歳以上で午睡が必要のない子は、保育者が保護者との話し合いのもと、寝ないで静かに過ごせるようにしている。
- * 午睡の選択ができる子は、自分で決められるようにしている。
- * 静かに過ごせるおもちゃを子ども同士で話し合い決めた。

・ 教師・保育士の具体的な働きかけ

- * 話し合いは主に年長が行う。
- * 全員の意見を反映する事を約束として、話し合いをするように働きかけた。

・ 働きかけのねらい

- * これまで、園の遊びのルールや行事の決め事など、話し合う時間を多くとってきた。
- * 多数決で決めると、意見を反映されない子が出てしまうので、全員が納得する事を大切にしている。

・ 成長した幼児・児童の姿

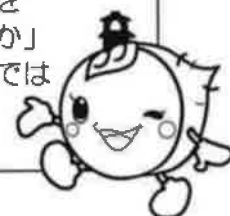
- * 話し合いで塗り絵、絵本に決まる。
- * しばらくして、パズルは始めるときに机にばらまく音が大きいという話が、子どもからあがり、一時休みとなった。その後、パズルをしたい意見があったので、曜日を定める、静かにやることを新たなルールとして、パズルをしてもよいことになった。
- * 話し合いの結果は、他の年齢の子どもたち教えていた。

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。）

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意識の芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

子ども同士の話し合いになると、時間はかかってしまう。しかし、大人が決めた環境の中で過ごすよりは、自分達で決めたルールの方が主体的になり、またそれを守ろうとしています。保育者は、その決定を見守り、必要に応じて関わったりして支えています。パズルがやりたいたいと意見が割れたことも話し合いの良い機会になるので、子ども達がそれぞれ意見を表明できる環境を用意し続けるようにしています。意見が違っても「どうしていくか」と相手の意見を聞き、気持ちに折り合いをつけていくことが、他者との関わりの中では大切な事であると思います。



R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) 和太鼓にチャレンジ!!

園・校名 霞ヶ関保育園

	幼児期の教育 (5歳4月～)
○	接続期①:アプローチ (5歳10月～)
	接続期②:スタート (第1学年1学期)
	小学校教育 (第1学年2学期～)

【活動内容】

- 概要
 - ・11月7日に行われる「かすみニコニコまつり」でクラスで“輝けばやし”の発表をする。
 - ・大きい和太鼓をたたく経験をする。
- 教師・保育士の具体的な働きかけ
 - ・少人数のグループを作る。(5～6人←3人+3人)
 - ・どの子も理解でき、わかりやすい構成にする。
 - ・うまいところを具体的にほめ、自信につなげる。
 - ・どんなたたき方でも大丈夫、元気に楽しくやることを大切にして声かけをする。
- 働きかけのねらい
 - ・一つのことをクラス全体でつくりあげる。
 - ・少人数のグループで友だちを把握しやすくする。
 - ・大きい太鼓をたたくことで一緒にやる楽しさを感じる。
 - ・楽しんでダイナミックにたたき、気持ちを開放する。
- 成長した幼児・児童の姿
 - ・大人数の前で堂々とたたき、保護者の方にも見てもらうことで、自信がついた。
 - ・グループ活動でこども同士で声をかけあうことが増えてきた。
 - ・いろんな友だちと関わるが増えてきた。
 - ・こどもたちからあそびが始まり、そこに参加する子が増えてきた。

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。）

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意の芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

- 【意義】・初めてのことに少し頑張ってクラス全体(担任も)でチャレンジして、そこに向かっていこうという気持ちの高まり、結束が感じられた。
- ・一つのことをみんなで達成した喜びを感じ、生活もさらに充実してきた。
- 【課題】・こども同士の関係が深まり、相手の気持ちも感じられるようになってきている。トラブルの時や生活の中で気づいたこと等の話し合いにつなげていき、友だちの話をしっかり聞いて、自分でまた考えられるようになってほしい。

R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) 他園との園外交流

園・校名 マーガレット保育園

☐	幼児期の教育 (5歳4月～)
☐	接続期①: アプローチ (5歳10月～)
☐	接続期②: スタート (第1学年1学期)
☐	小学校教育 (第1学年2学期～)

【活動内容】

- 概要
 - ・ 徒歩で公園へ行き、普段関わる事のない他園と交流
 - ・ 各園で子どもたち一人一人が自己紹介(名前・好きな食べ物)をした後「猛獣狩りに行く」や「しっぽ取りゲーム」などのレクリエーションを通して交流を深めていく。
- 教師・保育士の具体的な働きかけ
 - ・ 前もって他園の子どもたちと交流することを順を追って伝える
 - ・ 自己紹介の練習
 - ・ 交流会で行うレクリエーションを普段の活動の中にも取り入れる
- 働きかけのねらい
 - ・ 前もって伝えることで見通しを持って当日を迎える
 - ・ 自己紹介練習、レクリエーションの取り組みをしておくことでイメージが湧き、より一層勝敗の喜びや悔しさを共有し合える
- 成長した幼児・児童の姿
 - ・ 恥ずかしがらずに自己紹介することができた
 - ・ 初めは少し緊張している姿が見られたが、レクリエーションを通して同じチームになった子と話をしたり、名前を呼び合っていたり、帰り際には「また会おうね」と声を掛け合っている子が多かった

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。)

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意の芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

- <意義> 就学前に他園との交流の場を設けることで、社会性や協調性など生きる上で大切な力を身に付けるきっかけづくりとなった
- <課題> 他園の子と関わらず控えめな姿が見られた子もいたので、今後も他者と関わる場を設け、その都度サポートしていくことが必要だと感じた

R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) 浅漬け作りの買い物

園・校名 笠幡菜の花保育園

	幼児期の教育 (5歳4月～)
○	接続期①:アプローチ (5歳10月～)
	接続期②:スタート (第1学年1学期)
	小学校教育 (第1学年2学期～)

【活動内容】

《概要》

- ・食育として、季節の食材を知る。 ・交通ルールや公共の場でのマナー、ルールを知る。
- ・買い物バッグを持参するなど、エコでSDGsへの取り組み。
- ・金銭のやりとりと人とのコミュニケーション。
- ・硬貨の枚数や購入するキュウリの本数など、数への興味。関心。

《教師・保育士の具体的な働きかけ》

- ・硬貨やキュウリを数える。 ・硬貨やエコバッグを見せる。
- ・季節の食材を紹介する。
- ・公共マナー、交通ルールを伝えた。子どもたちが公共マナーを意識して買い物をする。交通ルールを守り、歩道を歩くよう声掛けをする。
- ・購入したキュウリを使って、クッキングをすることを知らせた。

《働きかけのねらい》

- ・数への興味、関心。 ・公共マナーを知る。 ・季節の食材を知る。
- ・交通ルールを知る。標識を知る。 ・SDGsへの取り組みを知る。
- ・食材がおかずとして出てくるまでの過程や関わっている人たちを知る。
- ・地域の方やお店の人に挨拶をする。
- ・食材と作ってくれた人たちへの感謝の気持ちを持つ。

《成長した幼児・児童の姿》

- ・作る過程に至るまでに多くの人に関わっていることを知り、感謝の気持ちが芽生えた。
- ・家庭で調理をすることや、好き嫌いせずバランスよく食事することに繋がった。
- ・食材を残すことなく使い切り食べることができた。
- ・エコバッグの活用を通して、SDGsを実践することができた。

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。）

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意の 芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり、 生命尊重	数量や図形、標識 や文字などへの 関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

- ・「自分でやってみよう」という意欲に繋げることができた。
- ・キャッシュレス、デジタル化が進んでいる世の中で硬貨を直接見ることが減っている。お金の価値など分かりづらいこともあり、目で硬貨を見て買い物をするという活動を今後も取り入れていくことが必要に感じた。
- ・人との関わりも減っている傾向がある中で、人と直接関わることや地域の方との関わりを大切にする経験を今後も行なっていくようにしたい。

R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～ (実践名) あそびの中で育む共感力 ～クラス活動、遊びの時間でのゲームの進め方、 制作時の素材選びなどを通して～	☐	幼児期の教育 (5歳4月～)
	☐	接続期①: アプローチ (5歳10月～)
		接続期②: スタート (第1学年1学期)
		小学校教育 (第1学年2学期～)

園・校名 ともいき保育園

【活動内容】

- 概要
あそびや活動の中で「子どもたちで決める」場を設け、自己主張しながら相手の思いを知ったり、受け入れたりすることで協力して楽しむ体験を重ねていく
- 教師・保育士の具体的な働きかけ
 - ◎「〇〇がやりたい!」という要望に対し、思いを実現できる支援をすることで安心感や信頼関係を築く
 - ◎朝のクラス活動時に、インタビューをおこない発言すること、話を聞くといった場を設ける
 - ◎子ども同士のやり取りの中で、トラブルになってしまう際は仲介に入り、お互いの主張や思いを伝え合い「相手を知る」援助をおこなう
 - ◎異年齢と関わる機会を多く取り入れる
- 働きかけのねらい
 - ◎自己主張をして自分の思いを伝える
 - ◎自己の存在感や他者と活動する楽しさを味わう
 - ◎自己主張のぶつかり合いによる葛藤

→ お互いに理解し合う体験を重ねながら関わりを深め共感力や思いやりの心に気づいていく
- 成長した幼児・児童の姿
 - ◎意見が違った場合は、子ども同士でどのようにすれば良いか案を出し合い、自身に折り合いをつけたり、次にそのあそびをしようなど対応策をみんなで考えようとする場面が多く見られるようになった
 - ◎「やってあげたい」という気持ちが育まれ、小さいクラスへ行って着替えを手伝うなど自主的に関わろうとする姿がよく見られている
 - ◎廃材あそびをしている時には、どの様に作ったのかを聞いて取り入れるなど、友達の影響を受けてあそびを展開させる場面が見られるようになった

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。）

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意の芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

意義: あそびや生活の中で、お互いの意見を出し合いながら活動を進めることができるようになった。お互いを知っていくことでより良い関係を築けたのではないかなと思う。

課題: 思いを伝え合う場面が増えた一方、口調がきつくなってしまうこともまだ多い。伝え方の重要性を伝えていく。

「折り合いをつけることは諦めること」というネガティブな考えにならないように、子ども達に意見していくことが大切だと感じた。

(他のものの方が良かったと思える状況をつくれるようにする。)

R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) かぼちゃとピーマンを育て食べる。

さくらんぼ第二保育園

【活動内容】

- ・ 概要
- ・ 何の野菜を育てたいかをみんなで考える。
- ・ 苗を買いに行き、友だちや保育者と協力して植える。
- ・ 水やりを行い、野菜の成長や変化していく様子を観察する。
- ・ 育てた野菜を収穫し、調理してもらい食べる。
- ・ 教師・保育士の具体的な働きかけ
- ・ 野菜の育て方や収穫する嬉しさを伝えていく。
- ・ 成長の変化に気づいたことを褒め、一緒に喜ぶ。
- ・ 食べる時、食材が苦手な児には挑戦出来る様に声を掛けた。
- ・ 働きかけのねらい
- ・ 野菜の生育に興味を持ち、色々な食への関心を広げられるようにする。
- ・ 苦手な物でも挑戦して食べようとする気持ちを育てる。
- ・ 好き嫌いなく食べる事が心身の健康に繋がっている事を知る。
- ・ 成長した幼児・児童の姿
- ・ 少しの成長にも気づき、毎日観察する様になった。
- ・ 自分達で育てた野菜の美味しさを知り、食への関心が広がった。
- ・ 苦手な食材でも挑戦出来る様になって来ている。

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。）

○健康な心と体	○自立心	○協同性	○道徳性・規範意の芽生え	社会生活との関わり
○思考力の芽生え	○自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	○言葉による伝え合い	○豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

意義…何の野菜を育てるか決める時、多くの種類の野菜の名前を上げる事が出来ていた。全員で2種類に決め毎日観察や水やりをし収穫を楽しみ、少しでも食べてその素材の味を楽しむ事が出来た。好きな物はもちろん苦手な物も少しずつ挑戦し、自信に繋がっていきたい。

課題…5月から10月と長期的に行っていく活動だったので子ども達との会話で話題に上げ、意識を継続させていくのが大変だと感じた。

R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) 友達や先生との関わりの中で、進んで他者に関わろうとする態度を育てる。

園・校名 川越市立霞ヶ関南小学校

【活動内容】

・ 概要

- (1) 2年生に学校を案内してもらう。また、学校の先生方と仲良くなるために、自己紹介してサインをもらう。
- (2) 校外学習の活動班で班のめあてや役割分担について話し合い、当日、グループ活動を行う。

・ 教師・保育士の具体的な働きかけ

- (1) 2年生と仲良くなれるように、自己紹介や握手をして活動を始め、レクリエーションをして一緒に遊び、さらに仲良くなれるようにした。
- (2) 校外学習のめあてにそって、班のめあてを決めるように助言した。班のメンバーで相談して役割分担を決めさせた。

・ 働きかけのねらい

- (1) 2年生と仲良くなることで、これからも一緒に遊んだり2年生をお手本にして活動したりすることができるだろうと考えた。
- (2) めあてや役割分担を守り、班で協力してグループ活動を行うことができるであろうと考えた。

・ 成長した幼児・児童の姿

- ・ 友達や2年生と一緒に活動したり、先生方と接したりする中で、学校生活の様子を知り、友達と仲良く遊んだり元気よく挨拶することができるようになっていった。
- ・ 班の役割分担に責任をもって行動したり、お互いに注意し合って班で協力して活動したりする様子が見られた。

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。）

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意識の芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

(実践の意義)

この時期の子どもたちは、他者との関わりに不安をもっていたり、友達への気遣いなく自分勝手な行動をとってしまったりする。友達と一緒に活動する中で、お互いの気持ちを考えさせて、進んで友達と関われるようにしていきたい。

(課題)

他者との関わり合いに消極的な子もいるので、個別の支援の仕方を考えたり、活動の機会を増やして経験を積み重ねたりしていきたい。

R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) あきのおもちゃまつりをしよう!

園・校名 川越市立霞ヶ関西小学校

幼児期の教育
(5歳4月～)

接続期①:アプローチ
(5歳10月～)

接続期②:スタート
(第1学年1学期)

○ 小学校教育
(第1学年2学期～)

【活動内容】

・ 概要

- ① 生活科の単元「たのしいあきいっぱい」で、グループになり、あきのおもちゃを作成する。
- ② 近隣の幼稚園、保育園の年長さんを招待し、作成したおもちゃで遊んでもらう。
- ③ 年長さんと1年生がペアになり、交流をする。

・ 教師・保育士の具体的な働きかけ

ダンボール、ペットボトルキャップなど材料を十分に用意した。
おもちゃの作成時には友達の良いところを見つけることを声掛けした。(ICTを活用し、全員のおもちゃを見られるようにした。)
子供たち同士で遊び、改善する時間を用意した。

・ 働きかけのねらい

材料コーナーを設け、子ども達自らのイメージを形にする。
グループで協力して行うことの楽しさを知る。
意見交換やコミュニケーションを取りながら協調性を育む。
1年生と年長さんがペアになることで下の子の手本となれるようにする。

・ 成長した幼児・児童の姿

おもちゃのコツや遊び方を教えることを通して、年上らしさが見られた。
幼児にとっては小学生になってからの姿が想像でき、児童にとっては、より年上らしくしようとする意識が芽生えた。

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。）

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意の芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

意義 友だちと協力することで仲間意識が芽生えた。協力をして、作り上げていくことで自信と達成感が生まれた。

課題 個人差を縮められるように一人一人に合った手立てを考えていく必要がある。

R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) あきの おもちゃを つくって あそぼう

園・校名 川越西小学校

幼児期の教育
(5歳4月～)

接続期①:アプローチ
(5歳10月～)

接続期②:スタート
(第1学年1学期)

○ 小学校教育
(第1学年2学期～)

【活動内容】

・ 概要

- 自分が作るおもちゃの計画書を書き、必要な秋の材料を考え公園で拾ってくる。
- 木の葉や木の実を使って、工夫しておもちゃを作ったり友達と一緒に遊んだりする。

・ 教師の具体的な働きかけ

- 秋探しに行く前に、どんなものがあるか、他の季節にはなくて秋にあるものはなにかを考えさせ、季節の違いに気づきやすくさせた。
- おもちゃの計画書を作成してから公園に向かうことで必要な秋の材料を知り、木の実や木の葉拾いに必要感を持たせた。
- 同じおもちゃを作る児童で集まり作らせたり、一緒に遊んだりすることで児童同士の関わりをもたせた。

・ 働きかけのねらい

- 春、夏ともに季節の物を実際に探したためその時と比べることで、秋のものを感じたり、季節の違いを感じさせたりする。
- 計画に沿って材料を集め、工夫しておもちゃを作れるようにする。
- お客と店役に分かれ活動させ、仲良く遊ぶためには遊び方や決まりを考え相手に伝えること、お客役の時には壊さないように決まりを守って遊ぶことなど、友達との関わり方について考えさせ、相手を尊重しながら遊ぶことができるようにする。

・ 成長した児童の姿

- 自ら進んで、秋の物を使って作ろうとする姿が見られた。
- 分からないことがあったときに、同じものを作っている児童に相談し助け合いながら作ることができた。
- 遊ぶ時には、決まりを守りみんなが楽しめる遊び方を考え活動する姿が見られた。

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。）

健康な心と体	自立心	協働性	道徳性・規範意の芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然とのかかわり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

意義：児童同士で作り方を教え合い、遊びのルールを守り活動することができる。
課題：製作時に手が付けられない児童や進まない児童に対しての支援が必要。

R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名)「むかしあそび」

園・校名 川越市立霞ヶ関小学校

【活動内容】

・概要

○地区の子どもサポート委員会の方々に昔から伝わる遊びを教わり、一緒にいろいろな遊びに挑戦する。

・教師・保育士の具体的な働きかけ

○昔遊びの先生方に対して、1年生らしい明るく元気な挨拶や心のこもったお礼の言葉、素直に教えていただく気持ちや態度を育てる。

○昔遊びの使い方や約束を生活科の学習の中で事前に指導。学習の中で見守りと声かけをすることで、各自で使い方や約束を守りながら遊べるようにする。

○昔遊びを体験できなかった友達に自分が教えてもらったことを上手に相手に伝えられるようにする。

○学んだ遊びを家でも兄弟や姉妹、お家の方と一緒に取り組めるように働きかける。

・働きかけのねらい

○昔から伝わる遊びの中で、自分がやりたいものを選んで練習して、学校でも家でも、いろいろな人と関わり合いながら一緒に楽しく活動できるようにしたい。

○昔遊びの遊び方や安全な使い方、他者との関わりも学ばせたい。

・成長した幼児・児童の姿

○最初は、思うようにできなかった遊びも友達と一緒にやったり、コツを教えてもらったことで、昔遊びの楽しさに気づき、遊ぶことが楽しめるようになった。

○遊び方を共有することで、伝え方が上手になった。

○得意な児童が友達に優しく声をかけて、教えてあげられる姿が見られた。

○言葉遣いに気をつけて話そうとする姿も見られた。

	幼児期の教育 (5歳4月～)
	接続期①：アプローチ (5歳10月～)
	接続期②：スタート (第1学年1学期)
○	小学校教育 (第1学年2学期～)

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意識の芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

意義：生活科の活動でお世話になっている地域の子どもサポート委員会の方々に様々な昔遊びを教えていただきながら、言葉遣いや相手を敬う気持ちや態度を育てることができた。年長者に対して、敬語を使おうという意識が高まった。また、サポート委員の方々に褒めていただくことで、できなかった昔遊びにも挑戦し、できた喜びを味わうことで、さらにレベルアップした技等に取り組むようになった。

課題：挨拶や言葉遣いを意識しないと、つい忘れてしまう児童もいる。その都度の声かけや地域の方達との交流を通して、学校の外でも気持ちのよい挨拶や態度のよい行いができる児童を育てていきたい。

R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～
(実践名) 話し合い活動を通して互いのよさを認め合える児童の育成

園・校名 川越市立霞ヶ関東小学校

	幼児期の教育 (5歳4月～)
	接続期①: アプローチ (5歳10月～)
○	接続期②: スタート (第1学年1学期)
○	小学校教育 (第1学年2学期～)

【活動内容】

・ 概要

学校研究の一環である。まずは、児童の実態を把握し、学校全体で学年ごとに目指す児童像を設定した。それをもとに、学年に応じた「話し合いのマニュアル」や「学級会グッズ」「学級会コーナー」を作成した。1年生の話し合い活動は、1学期から、7回目となる。1年生は、話し合いの準備を計画委員が担任と一緒に準備をし、担任の支援を受けながら計画委員が話し合い活動を進行している。計画委員は、5人グループの輪番制で行っているため、すでに全員、計画委員を経験済み。話し合い活動を重ねてきているので、進行や発言がスムーズになってきている。また、友達の意見を受けての発言や友達を思いやる発言も出てくるようになった。さらによりよい人間関係の形成力を高め、他者とのよりよい関わりが育つように、合意形成力を高める話し合い活動を目指していく。

・ 教師・保育士の具体的な働きかけ

- ①児童の実態把握のためのアンケート実施
- ②実態をもとにした「話し合いのマニュアル」作成
- ③話し合いを円滑にするための「学級会グッズ」の作成
- ④学級活動の見通しのための「学級会コーナー」等の環境づくり
- ⑤計画委員への声掛け等の支援

・ 働きかけのねらい

子どもたちの実態をもとに、話し合い活動が進めやすいよう、「話し合いのマニュアル」を見直し、改善した。また、話し合いが円滑にできるための手立てとして、時計板や話し合いの進め方の表示等の「学級会グッズ」を作成した。年間を通しての話し合いの活動の見通しが持てるように、教室の背面に「学級会コーナー」も作成した。学級会グッズや環境づくりだけでは足りない部分を言葉がけ等で支援をしながら、話し合い活動の実践を重ねてきた。

・ 成長した幼児・児童の姿

クラスをより楽しくしたりよくしたりするための議題を、子どもたちで考えられるようになった。また、話し合いの進め方にも慣れてきて、少しずつ、スムーズに進められるようになってきている。計画委員の司会や黒板書記、ノート書記の役割分担も互いの適性を尊重しながら、子どもたちだけで、納得しながら決められている。話し合い活動で決まったことの実践は、担任の予想以上の工夫を凝らしながら、子どもたちが中心となって行ってきた。自主的に活動する姿が増え、成長を嬉しく感じている。

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。）

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意の芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

学級活動に限らず、他教科での折り合いをつけながらのグループ学習が良くてできるようになった。今後は、この実践を活かし、さらに折り合いをつけ、より深い話し合いができるよう、自主性・実践力を高めていく。

R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名)「Aさんよろしくねかいをひらこう」(学級活動(1))

園・校名

川越市立霞ヶ関北小学校

【活動内容】

・概要

- ①10月16日から2週間程度本学級に外国から児童(Aさん)が体験入学をすることとなった。そこで、Aさんを温かく迎え、本学級の児童と仲良くなってほしいと考え、本単元を計画した。学級会における話し合い活動を実施し、話し合いの柱を1. なんのあそびをするか 2. あたたくむかえるためにどんなくふうができるか 3. やくわりぶんたん とした。
- ②話し合いの結果、1については「わたしはだれでしょうクイズ」「なんでもバスケット」2については「一人一つ、折り紙で作ったパーツを組み合わせて王冠を作ってプレゼントする」となった。3については後日決めた。プログラム、ゲーム、飾り、王冠、司会など全員が一役にして会の準備・運営を行った。
- ③会実施の翌日に振り返りを行った。

・教師・保育士の具体的な働きかけ

- ・話し合いのねらいを「Aさんをあたたくむかえられるかいないようかんがえよう」とし、常にねらいを意識して発言するように働きかけた。
- ・出した意見には必ずその理由を発表させた。

・働きかけのねらい

いわゆる「クラスレク」の話し合いになると、ただ自分がやりたい遊びを通そうとすることになりやすい。新しい友達を歓迎する目的を意識することによって「Aさんが喜ぶにはどうしたらよいだろう」「自分たちも楽しむにはどうしたらよいだろう」と相手のことを考えるようになり、ひいては、「相手が喜ぶことが自分たちにとっても喜びになる」ことに気付いていけることをねらい、働きかけを行った。

・成長した幼児・児童の姿

- ・意見の理由として「Aさんがよろこぶから」「Aさんもしぶんたちもたのしいから」といったAさんを意識する理由が見られた。
- ・話し合いの結果「わたしはだれでしょうクイズ」で楽しみながらAさんに自己紹介ができる、「なんでもバスケット」の出題を「自分たちのことを紹介する内容(例: サッカーが好きな人など)」にする、王冠作りでは全員が制作に関わる(全員からのプレゼント)など、Aさんが喜んだり楽しんだりできるであろう工夫ができた。
- ・振り返りでは「Aさんがよろこんでくれてうれしかった」「おもったよりみんながたのしんでくれてよかった」など、他者を意識した振り返りが見られた。

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。)

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意の芽生え	社会生活との関わり
○思考力の芽生え	○自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	○言葉による伝え合い	○豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

この時期の児童は自己中心的な傾向が強く、自分のことばかりで他者の気持ちを推し量れなかったり、自分と他者は常に同じ考え方をしていると思ったりすることがある。一方、周りの人に親切にしたり、周りの役に立つことが自分の喜びになったりもする。本実践を通して外国から来るAさんのことを深く考え(言葉が通じないかもしれない、知っている人がいなくて不安かもしれないなど)、Aさんが安心して学校生活を送れるための方法を考えた経験は今後他者と関わっていく上で意義深いことであったと信じる。話し合い活動において、全員が意見を発表できずに進んでしまったことは課題である。

6 班

- | | | |
|----|--|---------------|
| 1 | スペシャルハッピーデーを通して | (第二ひつじ幼稚園) |
| 2 | 発表会合唱練習 | (川越ひばり幼稚園) |
| 3 | 異年齢との交流 | (川越白ゆり幼稚園) |
| 4 | ルールのある遊びを通しての関わり | (名細保育園) |
| 5 | にこにこまつりを通して | (今成保育園) |
| 6 | 縦のつながりが紡ぐ心の育ち | (名細第二保育園) |
| 7 | バッタを飼ってみよう | (小室保育園) |
| 8 | スイートポテト作り | (おがやの里しもだ保育園) |
| 9 | 赤ちゃん当番 | (かつらの木保育園) |
| 10 | お店屋さんごっこ | (増美保育園田町) |
| 11 | 相手の気持ちを思いやり行動できる子 | (川越やまだ保育園) |
| 12 | 運動会にむけて、バトンパスの練習 | (川越南やまだ保育園) |
| 13 | 異年齢による当番活動 | (かつらの木第二保育園) |
| 14 | おみせやさんごっこ | (音羽の森第二保育園) |
| 15 | たのしい あきいっぱい | (広谷小学校) |
| 16 | 生活科「秋の おもちゃやさん」 | (月越小学校) |
| 17 | 今成小スタートカリキュラム | (今成小学校) |
| 18 | 幼児教育と小学校教育のスムーズな接続を目指して | (山田小学校) |
| 19 | いいところ探偵団 みんなでさかせよう笑顔の花 | (上戸小学校) |
| 20 | 自分の思いや考えをもちながら、他者との関わりを意識した話し合い活動と体験活動 | (泉小学校) |
| 21 | おもちゃフェスティバル (1, 2年生) | (名細小学校) |



川越市マスコットキャラクター ときも

R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) スペシャルハッピーデーを通して

園・校名 第二ひつじ幼稚園

○	幼児期の教育 (5歳4月～)
○	接続期①:アプローチ (5歳10月～)
	接続期②:スタート (第1学年1学期)
	小学校教育 (第1学年2学期～)

【活動内容】

・ 概要

普段は一斉保育のためにクラスごとに活動することが多いが、月に一回「ハッピーランチ」という自分の好きなクラスに行って食事をする機会を設けている。毎回それを楽しみにしている子どもが多いため、更に内容を充実させて、食事だけでなく一日いろいろなクラスを回って楽しく遊べるように設定した。イベント名の「スペシャルハッピーデー」は年長児が話し合って決めたものである。

・ 教師・保育士の具体的な働きかけ

1. 子どもたちが興味を持てるような内容のものをクラスごとに準備する。
2. なるべくいろいろなクラスに行って遊べるように一定の時間になったら放送を入れるなどして時間を区切る。

・ 働きかけのねらい

1. 自分で考えて自分の好きな遊びができるようにすることで自主性を育む。
2. 異年齢児との関わりを持ち、困っていたら助けてあげるなど、他児に優しく接する機会を作る。遊具を使用する際は順番を守り、安全に留意して遊ぶ。
3. 制作遊びでは作ったものに対して互いに感想を言い合い、認め合えるようにする。

・ 成長した幼児・児童の姿

1. どのクラスに行って遊ぶか自分で決めて行動している姿から思考力、主体性の成長がみられる。
2. 困っている子に「やってあげる」「だいじょうぶ?」「一緒に行こう」など、声を掛けられている姿がみられ、助け合いの気持ちを感じる。

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。）

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意の芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

どこの部屋で遊ぶのか、どの順番で回るのかなどを自分ないし友だち同士で相談する姿に思考力や主体性が育まれていることを感じる。しかし部屋の回り方がみな同じになると人数が多いクラスと少ないクラスになってしまうことがあるので、伸び伸びと遊ぶにはどうすればよいかを考えられるように導いていきたい。

R6幼保小実践事例集：「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) 発表会合唱練習

園・校名 川越ひばり幼稚園

	幼児期の教育 (5歳4月～)
	接続期①：アプローチ (5歳10月～)
	接続期②：スタート (第1学年1学期)
	小学校教育 (第1学年2学期～)

【活動内容】

・ 概要

発表会に向けて、学年全員で合唱曲の練習を行いました。
毎日の発声練習を通じて、声をしっかりと出す感覚を身につけ、アカペラ練習を取り入れることで、テンポや音程を取る力を育むことも目指しました。
自分の声を意識し、友達と声を合わせる楽しさを感じながら取り組みました。

・ 教師・保育士の具体的な働きかけ

* 毎日の発声練習：歌う前に必ず発声練習を行い、「お腹から声を出す」「口を大きく開ける」ことを意識させました。簡単なリズムや音階を使いながら練習を進め、声を揃える感覚を楽しみながら身につけました。
練習の中で他クラスの合唱を聞き、声を確認し合いながら歌うことで、調和の大切さを学ぶ機会を作りました。

・ 働きかけのねらい

* 発声練習を通じて、自分の声を意識し正しく出す力を育てる。
* グループ練習や役割分担を通じて、協力し合い、全体で一つのものを作り上げる喜びを体感する。
* 合唱を完成させる過程を通じて、共同で目標を達成する達成感を味わわせる。

・ 成長した幼児・児童の姿

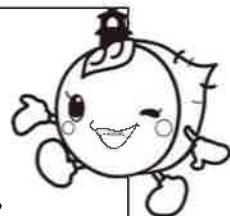
* 発声練習を毎日続けたことで、子どもたちは「しっかり声を出す」感覚を掴み、自信を持って歌えるようになりました。
* 練習を重ねる中で、「ここをもっと揃えよう」「こうしたらきれいに聞こえるね」と友達同士で声をかけ合い、合唱をより良いものにしようとする姿が見られました。

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。）

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意の芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践と課題

- ・ 合唱を通じて、全員で目標を達成する喜びを感じさせることができました。
- ・ リズム感や音程に個人差があり、全体で揃えるには時間と工夫が必要でした。



R6幼保小実践事例集:「健康な生活」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～
他者との関わり
(実践名) 異年齢との交流

園・校名

川越白ゆり幼稚園

○	幼児期の教育 (5歳4月～)
○	接続期①:アプローチ (5歳10月～)
	接続期②:スタート (第1学年1学期)
	小学校教育 (第1学年2学期～)

【活動内容】

・ 概要

- (1) ランチルームでの昼食を通して他学年のお友達との関わりを持つ。
- (2) お楽しみ企画の中で他学年のお友達と交流をしたり一緒に時間を過ごす。

・ 教師・保育士の具体的な働きかけ

- ◎上級生に配膳をしてもらった時に感謝の気持ちを伝えられるように促す。
- ◎上級生としての意識を持つこと、上の学年へ期待が持てるような話をする。

・ 働きかけのねらい

- ◎他学年のお友達との交流を通して、思いやりの気持ちや優しい心を育て幼稚園生活を楽しく、また進級することへの憧れや、期待を持たせることなどを目標にしている。

・ 成長した幼児・児童の姿

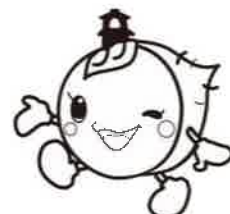
- ◎上級生への憧れの言葉が出たり、頑張ろうとする意欲が出た。
- ◎感謝の気持ちを言葉で表せるようになった。

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。）

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意 の芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・ 生命尊重	数量や図形、標識 や文字などへの 関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

- ◎他学年や同級生との関わりの中で、まだ自分中心になってしまうことも見られたので伝え続けることも大切だと感じた。
- ◎より多くの機会を取り、他人の気持ちも少しづつ理解できるようにしていきたい。



R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) ルールのある遊びを通しての関わり

園・校名 名細保育園

☐	幼児期の教育 (5歳4月～)
☐	接続期①:アプローチ (5歳10月～)
	接続期②:スタート (第1学年1学期)
	小学校教育 (第1学年2学期～)

【活動内容】

- 概要
 - ・ルールのある遊びを楽しみ、その中で友だちとやりとりをしていく
 - ・身体を十分に動かすものやチームで競うものなど、様々な集団遊びに取り組む
 - ・話し合いを通して遊びを工夫していく
- 教師・保育士の具体的な働きかけ
 - ・ルールを子どもたちに伝え、保育士も一緒に遊びながら展開していく
 - ・ルールの理解が難しい子へは遊びながら個別に伝えていく
 - ・工夫したり、展開したり、気持ちに折り合いをつける姿を認め、意識を高めていく
- 働きかけのねらい
 - ・関わりの少ない友だちとのきっかけ作りの為
 - ・自分で考え、行動できるようにしていく
 - ・友だちと協力して活動する楽しさを経験させる
- 成長した幼児・児童の姿
 - ・こどもたち同士でどうやったらチームが勝てるかを話し合う姿が見られるようになった
 - ・例え負けたとしても「次は勝ちたい」と次への意欲が高まっている
 - ・今までは関わりが少なかった友だちとも遊び以外の生活の場面で関わる姿が見られる

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。）

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意の芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

意義: 集団遊びを通して身体作りと話し合いをしながら友だちと協力し遊びを高めていく楽しさを経験できた

課題・今後も様々な集団遊び(劇遊び・ごっこ遊び等)を展開し、友だちとの関りを深める
 ・ルールのある集団遊びが得意ではない子も楽しめ、友だちと共感できるようにしていく(ルールを変えたり、小集団での取り組みを増やす)

R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) にこにこまつりを通して

園・校名 今成保育園

○	幼児期の教育 (5歳4月～)
	接続期①:アプローチ (5歳10月～)
	接続期②:スタート (第1学年1学期)
	小学校教育 (第1学年2学期～)

【活動内容】

- 概要
 - *夏の祭りで出店を出し、保護者や年少児、職員を招待する
 - *太鼓「かがやけばやし」を披露する
 - *年長児になっての初めての行事で、自分たちでお店の看板や品物作りをする
- 教師・保育士の具体的な働きかけ
 - *昨年の年長児は、どのようなことをしていたかクラスで話し合った
 - *まつりのイメージが膨らむように、行事の前に「川越まつり会館」に行った
 - *準備から行事まで期間、気持ちが途切れないように、こどもたちの意欲や意見を大切に
 - した
 - *大きな段ボールや廃材などを用意した
 - *意見が出たら、すぐに取り組めるように環境を整えた
- 働きかけのねらい
 - *自分たちの感じたことや、やってみたいことを伝え合い形にしていく
 - *身の回りの廃材や園にあるものを活用して、イメージを共有しながら作り上げる
 - *友だちと一緒に取り組むことで、充実感や達成感を感じる
- 成長した幼児・児童の姿
 - *自分の考えばかりではなく、友だちの気持ちも大切にしようとしている
 - *日々遊びの中で、身近な素材を使って作るようになった
 - *いろんな友だちと関わり、やりとりしながら取り組む姿が多くなった

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。）

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意の 芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・ 生命尊重	数量や図形・標識 や文字などへの 関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

- 意義 … 友だちと目標を持って1つのものを作り上げる中で、友だちの思いに気づき、どうしたら良いか考える機会となった
- 課題 … 自信がない子や意見を言えない子の声を、もっと拾っていけると良かった

R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) 縦のつながりが紡ぐ心の育ち

園・校名 名細第二保育園

○	幼児期の教育 (5歳4月～)
○	接続期①: アプローチ (5歳10月～)
	接続期②: スタート (第1学年1学期)
	小学校教育 (第1学年2学期～)

【活動内容】

- 概要
異年齢交流を通して、こどもたちに必要な心の成長を育む。
- 教師・保育士の具体的な働きかけ
 - 異年齢で活動する機会を増やす。
(リズム・散歩・午睡・調理活動・読み聞かせなど)
 - 年長として頑張る姿を小さい子に見てもらう。
- 働きかけのねらい
コロナ禍での活動の制限により、未満児クラスの頃から他のクラスの繋がりが希薄であり、狭い環境に慣れてしまっている。
異年齢交流を通して社会性や思いやりの心を育てていきたい。
- 成長した幼児・児童の姿
4月よりも視野が広がり、小さい子を受け入れられるようになってきたことで、優しい言葉掛けや世話をするなど自分だけでなく、人を思いやって行動ができるようになってきた。
年長としての自信や自覚も付いてきたことで新しい課題にも前向きに取り組めるようになってきた。

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。）

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意の芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

4月当初はクラス単独の活動を好んでいたこどもたちでしたが、色々な行事や普段の活動の中での交流を通して、下のクラスの子と触れ合う楽しさや嬉しさを感じられるようになりました。思いやりの心が育ち小さい子や職員から頼りにしてもらえることから自信につながり、成長することができました。

R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) バッタを飼ってみよう

園・校名 小室保育園

	幼児期の教育 (5歳4月～)
○	接続期①:アプローチ (5歳10月～)
	接続期②:スタート (第1学年1学期)
	小学校教育 (第1学年2学期～)

【活動内容】

- 概要
 - 虫に興味が出てきた中で、クラスで飼いたい子、かわいそうだから逃がそうとする子といた。クラス全員で話をする中で、相手の意見を聞いたり、自分の気持ちを話し、「かわいそうだけど飼いたい」という子も増えてきた。
 - 散歩先で新しい仲間を探したり、えさを取ってくる。
 - 虫が苦手な子も他児に虫かごを開けてもらう等して参加している。
- 教師・保育士の具体的な働きかけ
 - こどもたちが協力して頑張る姿を見守る。
 - 図鑑を用意し、いつでも調べられる環境を設定する。
 - こどもたちの発見や気づきを他の子にも共有していく。
- 働きかけのねらい
 - 生き物を大切に作る心を育てていく。
 - 自分の意見を友だちに伝えられるようにしていく、
 - 友だちの思いを聞き、自分と違う意見もあることを知る。
 - 友だちと協力する力を育てていく。
- 成長した幼児・児童の姿
 - 虫に興味を持つ子がさらに増え、原っぱの散歩も長時間熱中して楽しんでいく。
 - 大きな声で自分の意見を伝えたり、友だちの意見を受け入れる姿を少しずつみられてきた。

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。）

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意の芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり 生命尊重	数量や図形、標識 や文字などへの 関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

こどもたちの興味、関心のある所から機会を捉えて話し合いを持ち、言葉による伝えあいを通し、他児の意見を聞き自分の気持ちに折り合いをつけて整理していく過程がみられた。
今後も話し合いの機会を大切に、どの子も自分の意見を安心して言えるような配慮、環境設定をしていく。

R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) スイートポテト作り

園・校名 おがやの里しもだ保育園

	幼児期の教育 (5歳4月～)
○	接続期①:アプローチ (5歳10月～)
	接続期②:スタート (第1学年1学期)
	小学校教育 (第1学年2学期～)

【活動内容】

- 概要
 - ・友だちと話し合い、協力して作る。
 - ・レシピを見て教え合い、役割分担をする。
 - ・自分で作り周りから「美味しい、ありがとう」の言葉をもらい、達成感を自信に繋げる
- 教師・保育士の具体的な働きかけ
 - ・芋ほり後、クッキングで何を作りたいか一人ずつ発表。また他児の意見を聞く。
 - ・絵本の『すいっとぼてっと』からスイートポテトに興味が広がり、盛り上がる。
 - ・材料や作り方のレシピを一冊ずつ渡し、皆で読み合わせをする。
- 働きかけのねらい
 - ・レシピを見ながらどの役割をしたいか友だちに伝え、逆に友だちの希望も聞く。
 - ・手順に見通しを持ち、積極的に参加する気持ちを養う。
- 成長した幼児・児童の姿
 - ・準備から片付けまでお互いが協力し合うことで出来上がった。
 - ・レシピの読み合わせで、順番が分からなくなるとお互いに教え合った。
 - ・子ども同士で役割を交代する中「10回やったら交代ね」など譲り合っていた。



※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。）

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意の芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

チームで協力し合い協調性を育む。
友だちの姿を見て「すごいね」と認め合ったり、困っている際には「手伝うよ」など思いやりの言葉を伝え合う機会を大切にする。

～研究主題に基づく実践～

赤ちゃん当番

かつらの木保育園

	幼児期の教育 (5歳4月～)
○	接続期①:アプローチ (5歳10月～)
	接続期②:スタート (第1学年1学期)
	小学校教育 (第1学年2学期～)

【活動内容】

- 概要
 - 乳児担任の指導のもと年下の子のお世話をする。入眠準備、寝かしつけなど。
 - 毎日4名ずつ2人組で各クラスへ行く。希望した子が順番で行なう。
 - 段階を踏んで3月頃には、主活動から乳児クラスに入り、小さな保育者のように共に一日を過ごす予定。
- 教師・保育士の具体的な働きかけ
 - 寝かしつけで歌う子守歌を主活動で歌い自信が持てるようにする。
 - 自分より小さい子へ関わる時の方法をみんなで話し合い不安にならないようにする。
 - 本人の意思を確認。心の準備が出来てから参加する。
 - 乳児クラスの先生方へ「赤ちゃん当番」のねらいを伝え、子どもたちの育ち合いを支えて頂く。
- 働きかけのねらい
 - 人を思いやる心を育む。
 - 大切な絆と人間関係の構築。
 - お世話をして、頼りにされ、労われ、また手伝うことで自信につなげる。
 - 遊び・生活の伝承。教えることで自分自身も学ぶ。
- 成長した幼児・児童の姿
 - 子守歌をうたい自分の関わりで小さな子が寝てくれた。嬉しそうに手を振ってくれた。など、人との関わりの様子を沢山話してくれるようになる。
 - 寝かしつけした子が寝てくれた時の嬉しさ、充実感から笑顔になる。
 - 年上としての自覚。自信が生まれ意欲が湧き、他の活動も積極的に参加するようになる。
 - 年下への言葉かけ、関わりが優しくなる。困っている子への気づきが増えた。
 - 自分の身の回りの支度も早く丁寧になる。



※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。）

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意の芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

- 小さい子への関わりから学んだ事が、友だち同士の間わり方、優しさや他者を尊重する気持ちにつながっている。
- 心の準備が出来ていない子が参加しづらい為、自信のある子とペアにしたり気持ちに変化が生まれるように心を支えていきたい。

R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) お店屋さんごっこ

園・校名 増美保育園 田町

○	幼児期の教育 (5歳4月～)
	接続期①:アプローチ (5歳10月～)
	接続期②:スタート (第1学年1学期)
	小学校教育 (第1学年2学期～)

【活動内容】

- 概要
 - ・おまつりでゲーム(缶つみ、ボーリング、ヨーヨー釣り、ストラックアウト)のお店屋さんをする。
 - ・年下の子にやさしく接することを身につける。
- 教師・保育士の具体的な働きかけ
 - ・ゲームを実際にしてルールを理解できるようにする。
 - 各グループごとにどのゲームコーナーを担当するか話し合う。
 - 年下の子にどのように説明したら理解できるか 伝え方を考える。
- 働きかけのねらい
 - ・お店屋さんをすることで、自分の役割を認識する。
 - ・話し合いを通して、自分の気持ちに折り合いをつけながら、相手の思いを受け入れる。
- 成長した幼児・児童の姿
 - ・お店屋さんを通して年長としてのリーダーシップをとったりと自信がついた。
 - 話し合うことでお互いの意見を受け入れるようになった。

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。)

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意の 芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・ 生命尊重	数量や図形、標識 や文字などへの 関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

- ・お店屋さんという役割があったことで一生懸命取り組む姿が見られた。
- ・話し合いでは意見を言えない子に配慮し、話し合いの場を多く設けたり取り組み方を工夫していきたい。

R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) 相手の気持ちを思いやり行動できる子

園・校名 紀秀会川越やまだ保育園

○	幼児期の教育 (5歳4月～)
○	接続期①:アプローチ (5歳10月～)
	接続期②:スタート (第1学年1学期)
	小学校教育 (第1学年2学期～)

【活動内容】

・ 概要

相手にも気持ちがあることを知り、思いやりを持って行動できるようになる。

・ 教師・保育士の具体的な働きかけ

設定保育の中に「道徳」を入れ、気持ちについて子ども達と一緒に考える時間を作った。

また、子ども達同士の揉め事時に間に入り、お互いの気持ちを聞き、どうすべきだったのかを一緒に考え、対応した。

・ 働きかけのねらい

子ども達の成長の中で、自分中心に考えてしまう子もいれば、相手の気持ちを考えられる子もいた為、こういう時はどうすべきかを一緒に考える時間を作り、相手にも気持ちがあることを教え、人との関わり方や思いやりを持って行動できるようにしていた。

・ 成長した幼児・児童の姿

自分の気持ちを自分の言葉で伝えようとする姿が見られ、自分の気持ちを相手に伝えられるようになってきた。

泣いている子がいたら、「どうしたの?」と声を掛ける姿が見られ、一緒にどうすべきかを考えて行動できる子が出てきた。

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。）

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意の芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

自分たちで解決する力を付けてほしいが、まだまだ保育士に頼ってしまうところが多い。相手の気持ちを知ることで、「もう少しこうした方がいいのかも?」と相手の気持ちを考えられるようにサポートしていく。

R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) 運動会にむけて、バトンパスの練習

園・校名 紀秀会川越南やまだ保育園

○	幼児期の教育 (5歳4月～)
○	接続期①: アプローチ (5歳10月～)
	接続期②: スタート (第1学年1学期)
	小学校教育 (第1学年2学期～)

【活動内容】

・ 概要

毎年、運動会で5歳児がリレーを行っている。練習では順番に走る事は出来るが、バトンパスの所で立ち止まったり、誰に渡すのか分からなくなりもめている場面があった。

勝ち負けにこだわり負けると悔しくて泣いてしまう子もいた。保育士からどうしたらバトンがうまくつながるか問題提起し、自分で考え発言し友達の意見も聞く機会を作った。

・ 教師・保育士の具体的な働きかけ

- ①「バトンパスのどんな所が難しいと思いますか？」と子ども達に質問した。
- ②難しいと思った所を解決するにはどうしたら良いか子ども達自身に考えてもらった。
子ども達が考えている間は見守り、保育士が誘導しなうようにした。
- ③帽子の色を分ける、走る前にバトンを渡す子を確認する等、こども達から出た意見を取り入れて試しながらリレーを行った。
- ④リレーが終わった後に、どうだったか感想を発表してもらい友達の意見を聞くように伝えた。

・ 働きかけのねらい

- ・ 問題解決のために自分たちで考え意見を言い合う機会を作る。
- ・ 相手の意見を聞き、受け入れて練習を進めていく。

・ 成長した幼児・児童の姿

バトンパスが少しずつスムーズになり、自分たちで解決できた達成感を味わう事ができた。また、意見を言い合う際に強い言い方になってしまう傾向があったが、落ち着いて相手の意見を聞き理解しようとする姿が見られるようになった。

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。）

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意の芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

チームで力を合わせて相談したり応援する事で仲間意識が生まれた。

自分たちで考え意見を言い合い、問題を解決するきっかけになった。

R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) 異年齢による当番活動

園・校名 かつらの木第二保育園

○	幼児期の教育 (5歳4月～)
	接続期①: アプローチ (5歳10月～)
	接続期②: スタート (第1学年1学期)
	小学校教育 (第1学年2学期～)

【活動内容】

- 概要
 - 異年齢保育を活かし4歳児と5歳児のペアが日替わりで当番活動(事務所への人数報告・食事の準備・ゴミ拾い等)を行なう。
 - 年下の友だちに教え、協力して当番活動をやり遂げる。
- 教師・保育士の具体的な働きかけ
 - 子どもの手が届きやすい位置に用具や子ども用のエプロン(衛生着)を置き、活動しやすいよう環境を整える。
 - その日の当番が一目で分かるよう当番表を活用した。
 - 年度初めに手順や内容を子どもたちに伝える。
- 働きかけのねらい
 - 自分の役割を認識し、責任感と達成感を味わう。
 - 年長の自覚を持ち、年下の友だちに思いやりを持って接する。
 - 必要な道具を知り、主体的に行なう。
- 成長した幼児・児童の姿
 - 自分が行ないやすい手順を考え、見通しを持って行動するようになった。
 - 最後までやり遂げる自立心が育ち、経験が自信につながった。
 - 年下の友だちにどう声をかけたら分かりやすいか考える姿があった。
 - 当番の日以外にも、「何か手伝うことがありますか?」と自ら保育者に尋ね、人の役に立つ喜びを感じていた。

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。)

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意の芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

意義…異年齢保育の中の当番活動だからこそ、年長児としての自覚を持つことができ、他者を認める心が育った。

課題…その日のペアによっては、当番への意識の差が出てしまうことがあった為、前日の帰りの会で明日の当番を伝えるべきだった。

R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) おみせやさんごっこ

園・校名 音羽の森第二保育園

	幼児期の教育 (5歳4月～)
○	接続期①:アプローチ (5歳10月～)
	接続期②:スタート (第1学年1学期)
	小学校教育 (第1学年2学期～)

【活動内容】

- 概要
 - 自分たちで品物を作りお店に並べる
 - 売る人、買う人のどちらも経験する
 - お店屋さんになって低年齢児のおかいものの手伝いをする
- 教師・保育士の具体的な働きかけ
 - 自分たちで品物を作る時間を設けたり他クラスにチラシを配りに行ったりと、事前準備が楽しくできるよう活動を進めていく
 - 全員が売る人と買う人の経験が出来るようにグループ分けや時間に配慮する
 - お金のやり取りを楽しめるよう援助する
- 働きかけのねらい
 - 子どもたちが「やりたい!」「おもしろそう!」と自主的に活動に参加できるようにする
 - 大人の真似をしながら決められたルールの中で遊びを進めていく事で社会性を育む
 - お店屋さん、お客さん、小さい子との関わりの中で人とのコミュニケーションをはかる
- 成長した幼児・児童の姿
 - お店屋さんごっこに期待感を持ち自主的に準備をすることができ、看板づくりなどではこうしたらいいのでは?と子どもたちが意見を出し合って進めることができた
 - おもちゃは1000円、食べ物は500円とルールを決め、持っているお金の中で考えて買い物をし、買いに来た人に「〇〇円です!」と声かけするなど積極的にコミュニケーションをとることができた
 - 低年齢児には、買ったものを袋に入れて優しく声をかける姿がたくさん見られた

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。)

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意の芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

＊みんなで協力して準備を行いおみせやさんごっこを作り上げることで達成感を感じることができた。また、おみせやさんと買い物客を経験し、声の掛け合いやお金のやり取りなどの自然なコミュニケーションが生まれた。低年齢児との接し方も、年長児として自分で考える事が出来た。

＊一つの行事として行っている活動だが、大々的ではなくても普段の遊びの中でこのような機会をどんどん増やして子どもたちの成長につなげたい。

R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

	幼児期の教育 (5歳4月～)
	接続期①:アプローチ (5歳10月～)
	接続期②:スタート (第1学年1学期)
○	小学校教育 (第1学年2学期～)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) たのしい あきいっぱい

園・校名

川越市立広谷小学校

【活動内容】

・ 概要

本学年の児童は、ものづくりをしたり、友達と一緒に何かをしたりすることは好きな児童が多い。しかし、基本的な言葉や、それぞれの良さを伝える力などが十分ついていない児童が多く、少しうまくいかないことがあると「もういやだ」などの弱音が多く聞かれていた。

そこで、11月の生活科の学習で行う「あきのおもちゃづくり」を行う際に次の2点を学年の目標とした。「①自分が作りたいものを考え、そのおもちゃの楽しいところを見つける。②見つけた楽しいところを友達に伝え、協力をしておもちゃ作りをすることができる。」

まずは、遠足の際にどんぐりやまつぼっくりをみんなで拾ったり、休みの日に家族と拾ってもらったりし、おもちゃづくりへの意欲を高めた。

・ 教師・保育士の具体的な働きかけ

- ・生活科の学習の中で、秋のものを使ってできるおもちゃを紹介した。
- ・校庭や校外(遠足も含む)を周り、秋のものにはどんなものがあるのか、また、どんなところにあるのかを見つけにいった。
- ・簡単なおもちゃを作り、そのおもちゃの楽しいところやよいところをみんなで見つけた。また、友達に伝え合うミニグループ活動を行った。
- ・少しでも自分の考えを友達に伝えることが大切という指導を継続して行い、友達の前で自分の意見を言える機会を何度もつくった。

・ 働きかけのねらい

おもちゃの内容を紹介したり、実際に作ってみたりして、意欲を高める言葉がけを工夫したりすることにより、目標を持って意欲的に取り組めることをねらった。

・ 成長した幼児・児童の姿

- ・作るものが同じグループで分かれて作業をすることにより、よいところや工夫したいところが多く、言い合うことができていた。
- ・最初の頃よりも、友達に自分の意見を言うことができていた。
- ・最後まで友達と協力をして作り上げることができていた。

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。)

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意の芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題(意義○ 課題△)

○作ったり、試したりすることで、より興味関心をもって意欲的におもちゃづくりに取り組むことができていた。

○友達と一緒に活動することで、一人一人の思いや願いを活かした多様なおもちゃづくりを行うことができた。

●友達に自分の意見を言うだけでなく、友達の意見を最後まで真剣に聞くこともしっかりと身に付けていきたい。

R6 幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) 生活科「秋の おもちゃやさん」

園・校名 川越市立月越小学校

【活動内容】

○概要

- ・「秋の おもちゃやさん」では、2年生や保護者を招待して、楽しませるお店番を体験した。
- ・ 秋に見られる、実【どんぐり・まつぼっくり・紅葉した葉・オナモミ・ギンナンの実・南天】を使って、おもちゃを作る。
- ・ おもちゃやさんの店番をするために、必要なものを考え、制作する。
- ・ 友達と協力することで、より良い考えが生まれることを体験させる。

○教師の具体的な働きかけ

- ・ お店屋さん本番の前には、プレお店屋さんをクラスで行った。その後、お客さんを楽しませる工夫（いらっしゃいませ、ありがとうございました。の声掛け、優しく接することができて、お客さんが安心してやれた等）の良かった点や改善点（数が足りない、説明が不十分で、お客さんが困っていた説明書があったほうがよいこと、並ぶ場所をビニルテープで記すこと等）を出し合い、本番に向けてよりよいものを作っていこうと話した。
- ・ 「がんばりカード」を作成し、毎時間の活動の満足度、頑張ったこと、次回やりたいこと、を書くことで、児童の考えていることをみとった。その際出てきた悩みには、その都度、アドバイスを行った。

○働きかけのねらい

- ・ 良い話し合い、良い考えを出しているグループを見つけ、みんなに広め、互いに賞賛し合う態度を養った。
- ・ 学習計画を示し、お店屋さん本番までの計画・準備を考え、必要なものが何かを考え準備をするなど、見通しを持って活動できるようにした。

○成長した幼児・児童の姿

- ・ よりよいものにしていこうとする思考力。
- ・ 仲間と話し合いをして、協力する姿。
- ・ お店番の役をやることにより、丁寧な言葉遣い、分かりやすい説明をする力。
- ・ 自然を大切にしようとする姿。

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。）

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意の芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

- ・ 季節を感じるものを使って、おもちゃをつくることは、たくさん考え工夫し、試しながら、よりよいものを作ろうとする姿を見ることが出来た。できあがったおもちゃだけではなく、手作りおもちゃの良さを感じることができたのではないかな。
- ・ 児童が生き生きと学習を進めるための学習課題を考えることが大切である。また、児童がつまずいた時に、よりよいアドバイスができるようにしていくことも大切である。

R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) 今成小スタートカリキュラム

園・校名 川越市立今成小学校

【活動内容】

・ 概要

本校では、入学した子供たちが、幼稚園、保育園、認定こども園などの遊びや生活を通じた学びと育ちを基礎として、主体的に自己を発揮し、新しい学校生活を作り出していくための、スタートカリキュラムを実施している。

・ 教師・保育士の具体的な働きかけ

スタートカリキュラムでは、入学から1週目の1時間目は時間外として授業は行わず、朝の支度やクラスで過ごす時間を十分に確保している。2週目は、朝の支度の時間を十分にとりつつ、正規の日課に近づくような時間の工夫をしている。そこでは、以下のような取組をしている。

- 1「ちやちやスカッと大作戦」子供たちや担任と一緒に学校生活の送り方について考えたり、学校のきまりを確認したりして、学校生活への不安を解消する。
- 2「いまなりんタイム」学校生活を安心して送れるようにするために自分で支度をしたり、友達と関わったりする。地域ボランティア、担任外の教師の協力を得て、自由に過ごす間に、担任は連絡帳での保護者からの質問などの対応を行う。
- 3「わくわくタイム」生活科の授業を中心として、学校の生活のきまりや、施設の使い方など様々なことを担任と一緒に楽しく学ぶ。
- 4「ぐんぐんタイム」教科や領域を中心とし、いろいろな活動を通して、入門期の学習を行っていく。

・ 働きかけのねらい

遊びを通して、他の児童との交流を図ったり、学校という場所や教職員に慣れたりすることを目的としている。学校生活について、わからないことや疑問に思っていることを子供から発信し解決し納得することで、不安を解消し、今成小の一員になったという意識を高めていく。

・ 成長した幼児・児童の姿

さまざまな保育園や幼稚園から来る子供たちが一斉に学び始めるので、個人のペースに合わせて学校生活をスタートすることができた。登校渋りをする児童がなく、みな笑顔で登校することができた。学校生活に慣れ、落ち着いて学習に取り組むことができています。

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。）

健康な心と体	○自立心	協同性	道徳性・規範意の芽生え	○社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

友達作りや自己紹介ゲーム、言葉遊びや数遊び、集団遊びや教科につながる遊びなど、スタートカリキュラムでいろいろな活動を通して、学校は楽しく安心して過ごせる場所であることを知り、学校生活に必要な基本的スキルを身に付けることができた。どの子も、自信や意欲をもって生活することができている。今後は、より主体的に行動できるよう、支援していく。



R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) 幼児教育と小学校教育のスムーズな接続を目指して

園・校名 川越市立山田小学校

【活動内容】

- 概要
スタートカリキュラムの取り組みとして、入学式から約3週間は、モジュール学習を行った。1単位授業時間(45分)を15分ごとに3回に分割し、いろいろな活動を組み合わせた授業を実施した。
- 教師・保育士の具体的な働きかけ
○15分ごとの活動を「いきいきタイム」「わくわくタイム」「ぐんぐんタイム」とした。
○身体を動かす活動が中心の「いきいきタイム」では、聞き馴染みのある音楽を流しながら活動し、楽しい雰囲気づくりを工夫した。
○入学して約3週間は、常活動として毎日継続して行った。
○友達と交流する活動を積極的に取り入れた。
- 働きかけのねらい
○ネーミングにより、活動にイメージをもたせるとともに、親しみやすさを与え、より積極的な参加を促すことができる。
○音楽を流すことにより、児童の気持ちを高める、活動時間を確保する、教師の指示がなくても自主的に行動することができる。
○朝の活動として毎日取り組むことにより、見通しをもち、安心して1日の学校生活をスタートさせることができる。
○他者との関わりをもつことで、自分や友達のことを知るきっかけとなり、協同性を養い、楽しく安心して生活することができる。
- 成長した幼児・児童の姿
毎日続けることで、始めは受動的だった児童も活動を楽しみにするようになった。また、遊びを通して交友関係が広がった。さらに、順番を守る、時間を意識して活動する、友達と協力して後片付けをする等、約束やきまりを守って友達との関わりを大切にしている姿が多く見られるようになった。

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。)

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意の芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

<意義>

- 活動を通して友達との仲が深まり、よりよい人間関係を築くことができた。
- 短時間の学習により、集中力の持続性を培うことができた。
- 数週間反復して学習を行うことで、活動に見通しをもち、子供たちに安心感を与えることができた。
- 多くの子供たちが学校生活にスムーズに適應できた。

<課題>

- 幼児期に育ってきたものを見取り、受け止め、つないでいくためには、小学校教員がもっと幼児期の育ちに視点を当て、意識を改革し広げる必要がある。



R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) いいところ探偵団 みんなでさかせよう笑顔の花

園・校名 川越市立上戸小学校

	幼児期の教育 (5歳4月～)
	接続期①:アプローチ (5歳10月～)
	接続期②:スタート (第1学年1学期)
○	小学校教育 (第1学年2学期～)

【活動内容】

・ 概要

○学校生活について振り返り、生活する中で自分たちを支えてくれている人がたくさんいることが分かった。縦割り活動では他学年と遊びを通して関わり、6年生には毎日の掃除で掃除の仕方などを教えてもらっている。2年生とは、4月の学校探検では案内をしてもらい、運動会では、ブロックでの競技種目で力を合わせた。12月にはおもちゃフェスティバルに招待してもらうなど、様々な場面で関わりがあった。家族、先生、上級生などに関わる中で、特にクラスの友達とは、毎日助け合って生活していることに気づき、協力して生活するとともに、友達のよさに気付いて認め合うことができるようにする。そのために、もっと友達と仲よくなれるような活動を決め、取り組む。

・ 教師・保育士の具体的な働きかけ

○学校生活で、どんな人と関わっているか、お世話になっているか振り返る。
○友達のよさを知る、仲を深めるためには、どうしたらよいか話し合う場を設ける。
○決まった活動に取り組む。

・ 働きかけのねらい

○集団生活では自分だけではなく様々な人がいて、みんなで助け合って生活していることに気づき、友達のよさを見つけ、認め合うことができるようにする。

・ 成長した幼児・児童の姿

○友達の良さに目を向けることができるようになり、よさに気付いてもらえた人も、認めてもらえたことに喜びを感じていた。一人一人によさがあることを実感し、これからも協力し、仲よく生活しようという気持ちを持った。今後は、他学年や幼稚園の友達など、さらに関わりを広げていきたいと思っている。

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。）

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意の芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

○生活の中で多くの人に支えられ、関わり合っていることに気付くことができた。
○他者に目を向け、友達のよさに気付いたり、助け合おうという気持ちを育んだりすることができた。
△まだ、自分中心に考えてしまったり、距離感が掴めなかったりする児童もいるので、周りに合わせる、折り合いをつける、ということも学ばせていきたい。

R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) 自分の思いや考えをもちながら、他者との関わりを意識した話し合い活動と体験活動

園・校名 川越市立泉小学校

【活動内容】

・ 概要

- ① 学校生活への意欲を高める。(生活・国語)
- ② 考えを持ち、進んで伝える活動を継続する。(国語)
- ③ 多様な他者との協働の場を多くする。(行事・学級活動・生活など各教科)
- ④ よりよい学校生活を送ろうとする態度を養う。(道徳)
- ⑤ 自己肯定感や自信を高める。(道徳・生活)

・ 教師・保育士の具体的な働きかけ

- ① スタートカリキュラムを使用し学校や学級に慣れ、新しい集団の中でルールについて考え始めるように話し合いをし、様々な人と触れ合う体験(学校探検や紹介ゲームなど)を多くした。(生活・国語)
- ② チャレンジ国語の時間を活用し、自分の考えをはっきりすることや、相手に正しく伝えること、相手の意見を聞くことなど、話し合いの基礎を身に付けた。
- ③ 運動会や秋祭り、校外学習、昔遊び体験、係活動、各教科での話し合いなど多様な他者との関わりを多く持ち、話し合いや協働することの楽しさを実感させた。(行事・学活・生活など各教科)
- ④ 道徳(よりよい学校生活、集団生活の充実)で、自分もみんなのために何ができるかを考え、ウェビングマップを使用して考えを膨らませながら話し合いをした。
- ⑤ 道徳(個性の伸長)で自分自身の長所に考えた。また、友達の良いところを探す体験の中から、自他のよさに気づき、自己肯定感や自信を高めることができた。(道徳)

・ 働きかけのねらい

入学して、自分の成長を改めて感じさせる。また、自覚的な学びの時期に、話し合い活動や体験活動を通して、人間関係の形成が学校生活を豊かにしていく中で重要だということを考えさせ、よりよい他者との生活を送ることができるようにしていくために、実践した。

・ 成長した幼児・児童の姿

集団の話し合いの中で、幼稚園・保育園で体験してきたそれぞれの異なる内容を生かしながら、学校生活への意欲を高めていくことができた。また、体験活動を多く取り入れることや、他者と話し合い活動を通して学校生活をよりよいものにしていこうという態度も身に付いた。また、自分自身の成長に気づくことで、自己肯定感や自信にもつながり、学校生活への安心感も高まってきた。

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。)

健康な心と体	自立心	○協同性	○道徳性・規範意識の芽生え	○社会生活との関わり
○思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	○言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

様々な環境から集まり新しい集団を形成する時期に、話し合い活動や共通の体験活動を通して他者との関わり大切さについて考えることで、安心して学校生活をスタートすることができた。今後、ICTの効果的な活用や他学年や地域との連携をさらに工夫していくと、より充実した指導を継続的にすることができると思う。

R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) おもちゃフェスティバル (1, 2年生)

園・校名 川越市立名細小学校

	幼児期の教育 (5歳4月～)
	接続期①: アプローチ (5歳10月～)
	接続期②: スタート (第1学年1学期)
○	小学校教育 (第1学年2学期～)

【活動内容】

1 概要

- ・2年生の生活科の単元「うごくうごくわたしのおもちゃ」で、12月中旬に開くおもちゃフェスティバルに1年生を招く活動である。10月上旬からおもちゃ作りやお店の準備を進めてきた。
- ・当日は、「とことこ車」「ころんころん」「びよんコップ」「カーレース」「ロケットポン」「パッチングエル」「的当て」「射的」の8つの遊びを16ブース作って活動した。

2 教師・保育士の具体的な働きかけとねらい

- ・1年生と2年生は、学校探検(4月下旬)、運動会のダンス(5月下旬)など、日頃から交流を図っている。2年生の本活動は、作り遊ぶ活動や遊びを通して異学年交流を深めることがねらいである。1年生は、来年度に自分たちがおもちゃフェスティバルを開くという期待感を持たせることも、ねらいの一つである。
- ・児童の自治的活動を確保するために、当日の会場の様子や1年生の動き、自分たちの当番などを事前に確認しておくことで、児童に当日の様子をイメージさせ、共通理解を図った。

3 成長した幼児・児童の姿

- ・1年生は初めてやる遊びが多く、たいへん意欲的に活動していた。ルール説明をしっかり聞いたり、順番を守ったりするなど、ルールを意識した様子が見られた。
- ・2年生はこれまで準備してきたおもちゃを色々な人が遊んでくれことを喜んでいて、1年生に伝えるように、言葉や話す速さを意識した説明や優しく誘導する姿が見られた。
- ・1年生からは「すごく楽しかった。来年自分たちがやるのが楽しみ。」など、来年度への期待感を持たせることができた。また、2年生のふりかえりの言葉には、「1年生と一緒に活動ができて楽しかった。」「友達とおもちゃフェスティバルを成功させられてうれしかった。」があり、達成感や上級生としての自覚を味わわせることができた。

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。)

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意の芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

1年生 活動や次年度への期待感を持たせることができた。

2年生 自治的活動の成功体験により、達成感・充実感を味わわせることができた。